

福岡県立大学 同窓会会報

第14号

福岡県田川市伊田4395
福岡県立大学内
福岡県立大学同窓会事務局
TEL(FAX)0947-42-2777
平成18年2月1日発行



はじめまして

福岡県立大学同窓副会長 オカノカ 小河 信子



はじめまして、この度、副会長を受けることになりました小河と申します。母校である県立看護専門学校が発展的改組とは言え閉校したことは淋しいことでした。

永年、看護大学を望み、その実現を目指して努力された関係者の頑張りが、県立大学に看護学部創設ということで実ったことは大きな喜びでした。

高度な教育を受け人間性豊かな看護職が誕生し、活躍されることに明るい展望を覚えたものです。その一方で県看の同窓会がどんな形で継続していくのか不安でした。

同窓会として県大同窓会への加入を希望し、申し入れが行われてから、県大側のご理解、ご協力により早期に承認の運びとなり、県看卒業生にとってよりどころを得たことを、嬉しく思い

ました。

加入後、初めての県大同窓会総会が去る平成17年8月21日に開催され、そのなかで副会長として承認いただき紹介をうけました。

同窓会員として会費を納め協力していく気持ちでございましたのに思いがけないことになり戸惑いを感じています。

退職して10年余り、現場を離れている私が引き受けはしたものの、何ができるのか心配です。県立看護専門学校で看護職を目指して学び巣立っていった多くの方は、いろいろな職場・地域での活動、家庭と各々の場所で頑張っている、その思いをつないでいく橋渡しの役目があるのかと思っています。

私の住まいと同じ筑豊の地に、地域に開かれた大学として、様々な活動に取り組まれている学校に関心を持っていましたが、看護学部の誕生で同窓会として、つながったことで、より身近な存在となりました。

県立大学の益々の発展を祈念し、同窓会の役員として、今後微力ではありますが、同窓会の運営に協力していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。

同窓会会報年2回発行について

同窓会年会費納入ありがとうございます。皆さんが同窓会活動に興味・関心を強く持ち、ご協力頂いていることに深く感謝いたします。

今回、同期会よりお知らせや近況報告、同窓生の声などを中心に冬号を作成いたしました。この冬号につきましては、年会費納入者の方に配布するようになっています。

毎回の、近況報告等お寄せ頂いた原

稿を編集して行く中で、年一度の全会員配布が、ページ数の増加や通信費の増額のため、事実上困難となりました。つきましては、会報を初夏号と冬号とし、初夏号は全会員を対象に郵送し、その内容を今までの形式をより簡素化したニューズペーパー版に、冬号は年会費納入の会員のみを配布対象に、今回の14号を作成いたしました。同窓会会報は新たな進展として、年間2回の発行となります。これからも同窓会会報発行にご協力下さい。

目次:

頁

はじめまして 同窓会副会長	1
福岡県立大学14年目の秋 県立大学学長	2
磨けば輝いてくれる学生達 県立大学学生部長	2
受賞紹介	2
同窓会役員改選&紹介	3
同窓会総会報告	3
ジョブネットワーク	4
大学教員動向	4
学生就職状況	5
サークル紹介 (バトミントン部)	5
大学祭を終えて	5
同期会お知らせ	6
追悼コーナー	6
同期会開催報告	6
先生方よりメッセージ	7
同窓生の声(保母養成所)	8
同窓生の声(社保短)	13
同窓生の声(保健婦養成所)	14
同窓生の声 (公衆衛生看護学校)	16
同窓生の声(県立看護学校)	17
HotMail 私のこの頃 (保母養成所)	20
HotMail 私のこの頃 (社会保育短大)	21
HotMail 私のこの頃 (県大)	22
HotMail 私のこの頃 (保健婦養成所)	23
HotMail 私のこの頃 (公衆衛生看護学校)	24
HotMail 私のこの頃 (県立看護専門学校)	25

福岡県立大学14年目の秋

ハシグチ カツヒサ
学長 橋 口 捷 久

菊薫る11月3日文化の日、福岡県立大学にとって大変喜ばしいニュースが入ってきました。この秋の叙勲で初代学長の安藤延男先生が瑞宝中綬章の榮に浴されました。誠にめでたいこととございます。皆様とご一緒に心から慶びを分かちあいたいと存じます。



安藤延男先生は、九州大学在職中に、本学の前身である福岡県社会保育短期大学の学長に選任され、平成2年4月に就任されました。以来2年間、短大学長・附属幼稚園長のかたわら、福岡県社会保育短期大学四年制大学移行準備委員会の委員長として新大学づくりに奔走されました。そして、平成4年4月、福岡県

立大学の開学と同時に初代学長に就任されました。その後の先生のご活躍については、皆様ご存じのとおりでございます。平成9年4月には大学院人間社会学研究科修士課程を開設して、最後の大仕事をなし遂げられ、平成10年3月、学長任期の満了により惜しまれつつ退職されました。

さて、本学は、開学15年目の来年平成18年4月に再飛躍を遂げ、公立大学法人・福岡県立大学となります。本学は安藤初代学長と第二代学長の保田井進先生が築かれた偉大な遺産を継承して順調に発展してきましたが、今回の法人化を第二の開学とし、さらなる改革を進めてゆきます。同窓会とは今まで以上に緊密な連携を取り、ご支援ご鞭撻をいただきたいと考えております。私たちは、迅速で柔軟な意思決定と経営により、教育・研究・社会貢献のあらゆる面において社会・経済の急激な変化に対応し、18歳人口の減少にともなう激化する大学間競争の中で、存在感ある、個性溢れる大学を建設する所存です。

(昭和20年4月の福岡県立保健婦学校設立から数えると61年目の秋となります。)

磨けば輝いてくれる学生たち

モリヤマ センイチ
学生部長 森山 沾一

8,300名の同窓会会員の皆様には、それぞれの分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年4月より、学生部長をしております教育学（生涯学習・人権論等担当）の森山沾一でございます。県立大が14年前に設立されると同時に佐賀大学より赴任して、附属幼稚園長、生涯福祉研究センター長など地域貢献とかかわり深い仕事をしてまいりました。



学生部長となり、「学内広報」を2度編集しましたが、同窓会や後援会長から、玉稿を頂いてきました。夏の総会にも参加させていただいていますが、今年度の「関係機関での実践から、家庭支援を考える」シンポジウム、良い企画でした。卒業生の活躍、福祉、保健分野の実践と子どもの問題が明らかになったと思います。

会報第12号で、来年度の看護学部生卒業の前に、県立看護専門学校同窓会と統合されたことを知りました。保健・看護学校関係と保母養成・社会保育短大、県立大学の卒業生が8,306名の大きな組織になったことは、独立法人となる本学にとって大いに力づけられます。

県立大学の現在学生数は人間社会学部が671名、看護学部が242名、大学院が25名ほど、来年度で看護学部卒業生がでます。学生の就職率は昨年度90%でした。

4月から公立大学法人・福岡県立大学として、教員の非公務員化、中期目標・中期計画による運営交付金での自主的活動が行われます。本学学生にとって独立法人とは何なのでしょう？まず、シラバス（授業計画）の充実により講義や教育活動が充実される方向です。また、クラブ活動や地域ボランティア活動をやりやすくする体制づくりがされます。そして、意欲ある学生の入学と就職活動に力を入れて「県立大学に来て良かった」と何時までも思える学生が育って貰う方向です。そうなるかどうかかわっています。

同窓会は、専門教育充実と地域貢献を両輪として進もうとする学生・教職員にとって、強い味方です。本学の活性化に是非ご協力の程お願い申し上げます。

受賞 おめでとう ございます！

- 梶原 博子（保助2期
平成16年秋の叙勲 瑞宝単光章）
- 小河 信子（保健婦養成7期
平成17年受賞 日本看護協会会長表彰）
- 安藤 延男（県立大学元学長
平成17年秋の叙勲 瑞宝中綬章）

同窓会役員改選

平成17年8月21日の同窓会総会にて、役員の改選が以下のように、行われました。

会長 月脚 雅子 (再任)
副会長 榊 京子(任期満了)→小河 信子(新任)
副会長 川上 鉄夫 (再任)
副会長 郡谷 忠士 (再任)

榊京子氏 (任期満了)におかれましては、平成11年から3期6年間に渡り、副会長として、同窓会を支えていただきました。副会長就任中には、看護学部設置にともない、看護学部入学生を同窓会会員準会員として迎える取り組み、旧県立看護専門学校同窓会会員を、県立大学同窓会加入の取り組みに、ご尽力いただきました。ありがとうございます。

後任につきましては、県立保健婦養成所卒業の小河信子氏が推薦され、総会にて承認を受けました。

会報14号(本号)1頁にて、新副会長としての抱負を語って頂いています。

また、県立看護専門学校同窓会会員が、本同窓会加入となり、あらたに県同窓会会員より常任幹事を2名、保母養成所卒業生より1名、互選いただきました。常任幹事は社保短卒業生3名、県大卒業生2名、保母養成所卒業生1名と合わせて、9名となります。監事(会計監査)も併せて、よろしく願いいたします。

常任幹事

矢津田 克子 (保母養成所6期)
川口 克代 (保母養成所15期) 新任
崎山 世津子 (県立看護専門学校3期) 新任
山田 和子 (県立看護専門学校3期) 新任
古野 祐子 (社保短7期)
吉丸 あけみ (社保短12期)
川村 貴彦 (社保短14期)
蒲地 秀芳 (県大1期)
廣瀬 あずみ (県大1期)

監事 水ノ江 久子 (社保短3期)
石本 光輝 (県大2期)

常任幹事 崎山 世津子

県立看護専門学校を卒業して早30年になります。同窓会の幹事をお願いするという連絡を受け、私に責任を果たすことができるだろうかと心配になりました。

看護職から離れて25年、3人の子育てに奮闘し、看護を受ける立場になり、看護に対する誇りと熱意を私なりに持っていたのですが、医療を取り巻くものが多様化し、医療が遠くの存在になってしまっていました。不安と戸惑いばかりですが、諸先輩や後輩の方々の活躍の様子を読ませていただき、少しでも皆様のお役に立ち、お世話させていただければと思っています。よろしく願い致します。

常任幹事 山田 和子

8月21日(日)「ホテル・クリオコート博多」で開催された、県立大学同窓会総会から5ヶ月が経ちました。総会の中で常任幹事としてご紹介をしていただきました。まだ看護学部の卒業生がいない中で、「どれくらい役に立てるだろうか?」と不安な気持ちでいっぱいです。しかし、いろいろと考える余裕もないくらい忙しい日々を送っていますので、「何とかなるだろう～」と自分を励ましているところです。

さて、平成18年度より大学も法人化されます。大学同窓会を取り巻く環境が複雑に変化してきている中、会員のニーズに応えられる同窓会のあり方とは?を考えていくのは正直しんどいなと思っています。大学は人間社会学部も看護学部も対象は人間です。私もコミュニケーション技術を高め、他の役員の方々とよい人間関係が築けるように頑張りたいと思います。そして、諸先輩の皆様方のご指導や助言を頂きながら、職務を果たしていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。



第20回同窓会総会報告

平成17年8月21日(日)、福岡県立大学同窓会総会が、福岡市ホテルクリオコート博多にて開催されました。当日の出席者は総会出席100名(保母養成48 社保短23 県大6 保健婦養成5 公衛看6 県看12 来賓5)懇親会出席100名(保母養成46 社保短23 県大6 保健婦養成4 公衛看6 県看10 来賓5)にのぼりました。

総会では、平成15年度・16年度事業報告、決算報告・監査報告の承認、平成17年度・18年度事業計画及び予算案が審議の上、承認されました。

役員改選、常任幹事選出があり、総会を終了いたしました。

続くシンポジウムは、今回初めての企画として、保

健・看護・社会・福祉・教育・心理等の現場で活躍されている会員の皆様、互いに多く語れるものと考え、「関係機関での実践から、家庭支援を考える」一児童問題にスポットをあててとして、3名のシンポジスト、県立大学卒業：仰木真夕氏(児童相談所勤務) 県立看護専門学校卒業：諸永一美氏(保健センター勤務)、県立看護専門学校：吉永敦子氏(県保健福祉行政母子担当)、それぞれの現場での日々の取り組みを話して頂き、コーディネーター(保母養成所卒業：糸静子氏)進行のもと、フロアからの意見をいただきました。大変有意義な時間を持ってたと出席会員の方から好評を得ました。

懇親会には、県大：橋口学長、森山学生部長、平野先生、県立大学元学長安藤先生、社会保育短大元教員俵先生にもおいでいただき、歓談の時をもちました。

会員への協力要請

<皆様のお力をお貸し下さい>

県立公衆衛生看護学校 12回 深川 敬子

六本松の学校を卒業して、神戸、東京各20年保健婦として働き、博多の森で17年9月アットホーム博多の森という特別養護老人ホームを開設しました。友人は今しばしのゴールデンエイジを満喫中かと思いますが、私は1からの出発です。スタッフは一生懸命高齢者に寄り添い支え頑張っていますが、未熟な私は日々のエピソードに心震わせ、入居者が心安らかな一日になるようにと日々祈りの心境です。国も地方自治体もこれからの高齢社会を支えきれぬお金はありません。これからは人と人が手を繋ぎ、地域の輪が高齢社会を支えないと社会自体が成り立ちません。看護・介護・公衆衛生その他を勉強しそれを糧としてきたお仲間の皆様の心と力と知恵をお貸し下さい。

福岡市博多区大字下月隈73-1

アットホーム博多の森

TEL 092-623-6236



人間社会学部・看護学部教員動向

退職者のかっこ内は在職期間、新任のかっこ内は赴任日

【退職・転学】	原 知子助手
高間 満教授	(H15.4.1~H17.3.31)
(H12.4.1~H17.3.31)	大森 有起子助手
町井 輝美助手	(H15.4.1~H17.3.31)
(S61.4.1~H6.3.31 社保短)	
(H4.4.1~H17.3.31 県大)	【新任】
石井 敦子助手	本郷 秀和講師
(H15.4.1~H17.3.31)	(H17.4.1)
中野 実代子	松岡 佐智助手
(H15.4.1~H17.3.31)	(H17.4.1)
福田 珠恵助手	佐藤 香代教授
(H15.4.1~H17.3.31)	(H17.4.1)
手島 聖子助手	芋川 浩助教授
(H15.4.1~H17.3.31)	(H17.4.1)
伊藤 真由助手	奥 祥子助教授
(H15.4.1~H17.3.31)	

<NPO立ち上げにご協力お願いします>

厚生労働省は、育児等の緊急サポートネットワーク事業を創設しました。主な緊急サポートは、病児、病後児の預かり・急な残業出張の際の宿泊を伴う預かり・緊急度の高い保育所等への送迎や預かりなどです。この事業を起こすためにNPO(特定非営利法人)を設立したいと思います。小規模の事業をやってみたいと思われる方、またはご協力いただける方を探しています。場所はニーズの高い福岡市の都心部に近い所がいいと思います。

法人のメンバーになっていただける方・定年になって、時間的にゆとりのある保育士、看護師等・現在保育園を運営されていて、法人を立ち上げ受け入れ準備ができるまでの間、場所を貸していただける方・その他関心のある方・連絡をお待ちしています。(法人を立ち上げるまで、かなりの期間が必要です)

連絡先

〒882-0001

延岡市大峽町7925-25

糸 静子 (保母養成所4期)

TEL・FAX 0982-31-0384

同窓会ジョブネットワーク

○「国際保健論」講師を捜しています。

延岡市吉野町 九州保健福祉大学 通信教育部で、「国際保健論」の科目を担当して下さる講師をさがしています。特に資格条件はありません。保健分野で国際的な視点からの実績のある方等、希望される方は下記へ、ご連絡ください。

TEL・FAX 0982-31-0384

糸 静子

—臨時職・パート ・アルバイト情報—

同窓会ジョブネットワークでは、会員又は県大生への、求人情報を毎号掲載しています。ちょっと働きたい、こんな仕事してみたい。また、こんな人材が欲しい等、求人・求職情報を事務局へお送りください。年2回発行の会報に掲載いたします。在学生へのアルバイト情報もお待ちしています。

(H17.4.1)	石川 フカエ教授
(H17.4.1)	夏原 和美助教授
(H17.4.1)	藤野 靖博助手
(H17.4.1)	福田 和美助手
(H17.4.1)	田中 美樹助手
(H17.4.1)	中村 恵美助手
(H17.10.1)	赤木 京子助手
(H17.12.1)	笹尾 松美助手

県大生の就職状況（平成16年度卒業生）

平成16年度の本学卒業生の就職状況は、4月30日現在で表のとおりで、卒業生156名中、就職希望者は111名。就職決定者は100名で、就職決定率は90%となっています。

（県立大学広報第22号より抜粋）

日頃より、県大生に同窓生としての、親しみを感じ、実習情報や就職情報を同窓会にお寄せいただきありがとうございます。

また、また職場実習では、後輩として色々アドバイスをいただいているとの話しも聞きます。今後もどうぞよろしくお願ひいたします。

在学学生・卒業生への求人情報提供につきましては、同窓会活動として取り組んでいます。職場や関係機関での求人情報がありましたら、県大学生課まで、是非ご連絡下さい。

TEL 0947-42-2118（福岡県立大学 学生課）

	就職希望者	民間企業	病院	社会福祉施設	公務員	合計	就職率(%)	大学院進学	専門学校等	その他
社会学科(47)	37	25	1	1	6	33	89		1	13
社会福祉学科(47)	43	4	11	22	3	40	93			7
人間形成学科(62)	31	13	2	4	8	27	87	9	9	17
計(156)	111	42	14	27	17	100	90	9	10	37

祝大学祭！

○第14回秋興祭を終えて

第14回秋興祭実行委員長 井上千鶴

今年も11月12,13日の二日にわたって秋興祭が開催されました。当日は良い天気にも恵まれ大きな問題もなく終えられたことを実行委員一同大変うれしく思っております。今年は「絆~no border no distance~」をテーマに掲げ総勢51名の実行委員で取り組んできました。学生同士のつながりや学生と地域の方たちとのつながり、そういった人との関係を感じてもらえる祭りにしたいという願いが込められています。今年は多くの方のご協力のもと山笠の出演をお願いしたのですが担ぎ手には他大学の学生も参加し、田川の文化に触れてもらえるよい機会になったのではないかなと思います。また期間中の駐車場警備やタレントの警備など見えにくい部分でも実行委員以外の多くの学生が協力してく

れました。多くの方々の力で作り上げることができたのだと今ひしひしと感じております。来年もこれまでの歴史を大事に、また新しいことにも挑戦しながらすばらしい秋興祭をつくってください。最後になりましたが秋興祭の開催にあたり多大なご支援、ご協力をいただきましたすべての皆様、本当にありがとうございました。



サークル等紹介

○ バドミントン部

こんにちは！バドミントン部です。私たちは男子3名、女子33名、総勢36名で月曜と木曜の週2日活動しています。毎年10月にはOBの方々大変お世話になっております。先日の県リーグでは残念ながら1部から2部へと降格してしまいましたが、10月の新人戦では女子個人シングルス優勝、準優勝。12月の北九インカレでは女子個人シングルス、ダブルスともにベスト8と実績を残してきました。

今年は19名もの新入部員が入り、バドミントン部始めて以来ではないかと思われる大人数に私たち3年生もすこし戸惑いました。しかしそれは、私たち部員がバドミントンを大好きだという気持ちがそれだけの人に伝わった結果であると思います。楽しい試合がしたいからこそ少しでもうまくなり、強くなり、という思いでみんながんばってきました。3年生は12月をもって引退となってしまいますが、私たちの部活はこれからももっと成長してくれると思います。あたたかい応援をよろしくお願いします。



同期会お知らせ

○公衆衛生看護学校 1 1 期のみなさんへ
公衆衛生看護学校 1 1 回生の皆様お元気ですか。平成 1 8 年 3 月 2 6 日から 3 月 2 7 日に佐賀の宮原美枝子さんのお世話で 1 1 回生の集いを開催します。場所は文化や旅情豊かな柳川でおひな祭の時期の開催です。ぜひご参加ください。

○保健婦養成所 1 0 期のみなさんへ
数人の人からクラス会を是非開きたいという声が出ています。0 6 年の春頃計画してはという声もあるので近隣の方と話し合っ実現したいと考えています。

○保健婦養成所 7 期のみなさんへ
卒業後まだ一度も同期会であつまっていません。同窓会も何度かの変遷の末、県立大の同窓会に統合されてやっと安住の地を得たと私は個人的に思っています。

今度、長年幹事をされた小河さんの後、地元でもありますので、はじめて保健婦養成所 7 期の幹事を引

き受けました。一度同期会を実現したいと思いますので同期の方の情報を是非お知らせ下さい。
(保健婦養成所 7 期 猪俣誠子)

○県立看護専門学校保助 6 期生のみなさんへ
お元気でしょうか？

最後の同期会をしてもう十年以上は、経ったのではないのでしょうか

子育ても終わり(?)そろそろ自由のきく身になられたところで、同期会しませんか。
ご賛同の方は連絡お願いします。(県立看護専門学校保助 6 期 江島 0952-52-2250)

追悼：謹んでお悔やみ申し上げます。

北崎 初枝(保母養成10期 H17年3月20日逝去)

久保山 万城子(旧姓:宇都宮 社保短3期
H17年8月14日逝去)

田中 加代子(県看看護学科28期

H17年1月22日逝去)

松岡 栄子(社会保育短期大学学生課勤務)

同期会報告

○九期会の集い

保母養成9期 松尾 妙子(高橋)

「あれ！あなたは」「私、野間口(浜田)よ」「あの人は」と声が飛び交う同総会後の九期会。

施設保母2年、保育所保母2年の短い福祉の職場を結婚で離れ、夫の転勤で東京、大分、横浜、千葉と移り、今日に至っている。その間、帰福した折にお会いした方々もいますが、同窓会、同期会の出席は卒業の年に出席して以来の参加でした。あの人、この人、あのしぐさ、その語り口があつという間に44年間の空白は埋り、2年間一緒に学んだ仲間に戻れた。夫々の道を歩まれ、現在も地域社会に養成所精神で貢献されている方も多い反面、残念ながら2名の方が亡くなられていた。お2人の在りし日のお姿を忍び、思い出を語り合いながらご冥福を祈りました。

加齢と共に同期会も回を重ねていくでしょう。次回も元気に再会できますように、そして今回出席できなかった方々にもお会いしたいですね。

私の手元に、福岡県立保母養成所と印字された緑が擦り切れセピア色の「生活指導の歌とリズム」「幼児のうた」が大切に残してある。入学と同時にピアノやリズム楽器のレッスンを悩まされたこと、ファイル2冊の折り紙製作に明け暮れたことなど、2年間の養成所時代が走馬灯のように思い出される。



○社保短保育科 7 期生クラス会

社保短 7 期 古野 祐子

“しゃほたんほしちくらすかい”と呪文のような言葉“社保短 保七 クラス会”とすれば幾分馴染みやすいでしょうか？

社会保育短期大学略して“社保短” 保育科七期略して“保七”。そのクラス会を10年ぶりに、11月12・13日に宗像市の玄海ロイヤルホテルで、14名の参加者を得て行いました。

卒業して30年が経ち、ややたるみやしわが現れてはいるものの、職場や地域、家庭においてそれぞれに充実した生活をおくっている事が、会話や表情から伺える楽しいひと時でした。

中でも、木造のおんぼろ校舎での2年間の学生生活に関しては、話題が尽きることなく夜更けまで語り合いました。

今回の宿泊クラス会は、10年後『還暦祝い東京ディズニーランドと巣鴨探訪ツアー』にしようという事でまとまりました。



★旧教職員(県看の旧教職員を含む)は特別会員として、訃報に際して、同窓会から弔電を送っています。訃報を同窓会事務局までFAX又は電話でご一報ください。FAX・電話共通0947-42-2777

先生方からのメッセージ

<最近思ったこと>



吉塚林病院医師、県立看護専門学校 元学校長、福岡県保健環境研究所 元所長、九州大学 名誉教授 加藤 元博

この度は同窓会会報に旧県立看護専門学校関係者にも寄稿の機会を与えていただき、感謝申し上げます。私は本年4月から高齢者を対象とする療養型病院に勤務していますが、私の専門分野である脳生理学の立場から認知症の患者さんを診療できることをありがたく思っています。ここでの経験に以下のようなことがあります。すなわち、認知症の患者さんの“問題行動”の根底には大なり小なり“帰宅願望”が渦巻いており、これを看護や介護の工夫によってある程度軽減し、患者さんを落ち着かせることができる場合が少なくないという事です。そのためには、豊かな経験に基づいた臨機応変の対応が重要だと思います。近年、医学教育では実地医療教育の不足が問題となり、2年間の臨床研修制度が開始されましたが、看護教育においても理論と研究に関する教育はもちろん、実地的教育にも十分に力を注いで、バランスのとれた教育をさらに発展させていただきたいと願っています。県立大学がこれからも社会貢献の度をますます高めつつ、発展されることを祈念しています。

<みずきの風を・・・>

福岡県立大学看護学部
女性・小児看護学講座助教授 古田 祐子

福岡県立看護専門学校の閉校記念誌「みずきの風」を開けてみますと、体育祭、研究発表、予餞会など様々な行事が楽しい思い出となってよみがえります。このような中で、学生はコミュニケーション力、協調性、主体性、創造性などを培い、卒業時にはすばらしく成長した姿で教員である私を感激でいっぱいにしてくれました。

看護専門学校では17年間助産師教育に携わっていましたが、現在は福岡県立大学の女性・小児看護学講座に所属し、平成18年度より始まる助産師教育に胸躍らせています。本学では助産学をモデルとし、リプロダクティブヘルス/ライツとプライマリーヘルスを基本概念に助産師教育を行う予定です。しかし、4年制の大学の中での助産師教育には問題が山積みしており、基礎知識や技術力の低下が懸念されています。そのため、本学では大学院での助産師教育も並行して検討中です。教育は教員だけではできません。女性やその家族をはじめ、実習施設や先輩諸氏の御支援をいただきながら一学生が一

人の助産師へと育っていきます。どうぞ、これからも暖かい心で未来の助産師たちの育成にご協力くださいますようお願い申し上げます。

<安藤流コミュニケーション>

県立大学 元学長 安藤 延男

私の県立大学在任は、平成2年4月からの8年間でしたが、その後、(財)福岡県人権啓発情報センター館長として、平成10年5月から7年間勤めました。なお、その間、平成11年6月からの4年7ヶ月間(学)福原学園の理事長も兼務しました。現在は、(財)集団力学研究所(常務理事:所長)に出ております。今「エッセイ集」(仮題)を編集中です。収録文書中には「福岡県立大学2900日:成熟社会の中で大学を「起業する」(20頁)も含まれています。9月には出ます。実は、H17年度後期に福岡県立大学の「コミュニティ心理学」(2単位)に非常勤講師として出講します。まともな講義からは10年ほど遠ざかっていますが、頑張ります。



←梓書院より出版

<クライアントの側にたつて>

社保短 元教授 内海 洋一

やがて84歳。単身で、歌で有名な「城ヶ島」の側の終身介護付きの有料老人ホームで暮らしています。422戸、約500名の入居者。約80%は女性、老婆の寄宿舎の感。外部の人も利用するクリニック。ATM、日用品販売店、美容院、喫茶店、リハビリ室等があり、入居者だけ利用できる各種クラブ、駐車場、畑等もある。福祉の視点でみると問題が多い。医療、介護の従事者の室、転職者の多さ、不十分なバリアフリー等、高齢者の介護は問題が多すぎる。ここはまだましと言われるので、仕事をしない、金稼ぎや物貰い第一のホームヘルパーの醜い話し等を聞くと怖くなります。卒業生の皆さんは、クライアントの側にたった良い職員になってください。極めて安く泊まれる外部の人の宿泊室もあります。費用はこちら持ちにしますから御出ください。最高級のホームに属す聖ルカのホーム入居料(15年間)2~5億円ですが、上京の際に、城ヶ島見物がてら、中クラスのこの有料老人ホームに一泊し、見学して帰福されてはどうですか。

<近況>

社保短 元教授 小関 康之

平成17年3月末を以て九州保健福祉大学副学長、同大学院研究科長、教授を任期満了にて退職し日米発達障害院院長に就任しました。

<学長4年間を経て>

社保短 元学長 前川 一之



私は4代目の学長として、1977年から81年迄お世話になった。大学の管理、運営に於いて何の経験もなく、識見もなく、又社会・保育の専門領域に於いても全く造詣のない畑へよくも飛び込んだものだ、今にしてしみじみ思う。社保短で当時懸案の問題として、附属幼稚園の開設、校舎の建築、そして四年制大学への昇格があったと回想される。この内第一の幼稚園開設は、着任当時、概算要求が通って行って、園の建築とか諸規定作りなどが当面の課題であった。これは翌春開園の運びになった。次に取り組んだのは校舎の建築の事であったが、田川市からボタ山の土地との交換の話が持ち込まれてきたり、建築に於いても種々要請の妙案が提出されて、会議を重ねる事が多かった。県庁へも御百度を踏んだ。これも何とか席についたが完成を見ないで退任した。然し思えば、学問の進展、研究、教育の充実振興等、学長にとってもって本質的な責務がある筈である。この点に関しても、どんな貢献をしたのかと省察すると、何とも

汗顔の至りである。幸いにその後、四年制への昇格を果たし、更に修士課程も設置され、着々発展して居られる様子、敬服に堪えない。

<太宰府の片隅から>

県看 元教員 櫻井 敬子

卒業生のみなさん、お元気ですか。福岡県立看護専門学校が閉校して3年、みなさんは様々なご活躍のことと思います。5年間の教員生活を振り返ると、私自身の学習の場でもありました。精神科看護を理論的に伝えることは難しく、常に自分を奮い立たせながら仕事をしていたような気がします。学生の皆さんはみずき祭、体育祭、勉強・・・と何でも全力投球でした。私の学生時代はこれほど直球で人間と向き合っていたのだろうか、と思うほど盛りだくさんでハードで、そしてそれぞれの学生にとって有意義な2年間であったように思います。私が現在所属する福岡県立精神医療センター太宰府病院は、卒業生にとって懐かしい？実習の場です。私は認知症の患者様を主とする病棟で、楽しく働かせていただいています。みなさんも、どうぞこれからも向上心を持ち続け、自己実現のために頑張ってください。太宰府の片隅から応援しています。

同窓生の声

<「要介護1」の認定を受けて>

養成2期 梅崎 昭子

3回目の審査で、「要介護1」の認定を受けました。今年の夏も、発熱、めまい、ふらつきで一歩も外に出れず、ヘルパーさん（有料）も日参する始末。苦しんでいる私を見かねて民生委員のTさんが、介護機関に働きかけやっと認定がおりました。早速、ケアマネージャーの説明を受け、その中で、「ヘルパーとのコミュニケーションはできない」と、Tさんは、元病院に勤めておられたのですぐに「心療内科」をすすめて添っていただきました。診断は「パニック症」でした。現在は大分よくなりました、ヘルパーさんと呼ぶのも少なくなりましたが、行政指定の事業所だからか、ヘルパーさんは一日に三～四人交代で私の指示待ちで動かれるので疲れ切っていました。介護のプロである人は、私のような「心の病」には、まず「心のケア」を優先してほしいのです。私は、Tさんと出会ってなかったら、病状は悪化して「鬱病」になり、介護保険の負担も大きくなっていただいことでしょう。この度病気をしたことでは若い時には思いもしなかった「不安感」が複合的にあらわれ、高齢者特有の病気を引き起こすのだと知



りました。いま私が一番のぞむことは、介護のプロとしての観察眼をもって、マンツーマンで接してほしいことです。介護する側は、専門家であろうと、友人、家人であろうと、病人が最も信頼できる人ひとりでのよいのです。児童問題でもおなじ、素人の目には見えない専門の目が病院を救い予防介護につながり、事件も未然に防ぐことができるのではないのでしょうか。私の場合も、Tさんのプロの目が私を救って頂き一日も早く「要介護1」返納し苦しんでいる人たちにさし上げてほしいと思って回復にはげんでいます。

<自分史七十四年、毎日が楽しい>

養成2期 岸上 美智子



帽子を被って、イヤリングをして、少し派手目の服を着て何時も大きな荷物を持って、東奔西走している人、それが私です。「先生、何時までも若い。」と皆さんが言ってくれます。でも本当は、体はバラバラ、胃癌の手術、糖尿病、椎間板ヘルニア等、立つのが辛い日さえあります。なのに、元気そうに見えるのは、心が若いからでしょう。

好奇心旺盛、何事にも積極的に苦を苦としない、多

趣味で各種ボランティアに参加し、自分を楽しんでいるからでしょう、福祉施設で四十年間働いたそのご褒美に年金を戴き、子供達にも世話にならないという自負もあり、退職後十二年毎日が充実し、今日は古文書研究、明日は手話学習とカレンダーは真っ黒。保育園時代から暖めていた手作りと書道、退職後は本格的に教室を持ち、育児中の母親や保育士、年長者、学童たちの指導、三年後に迎える喜寿を記念に展示会を開催する予定で現在、仲間と共に作品作りに頑張っているところです。

<私の近況>

養成2期 山口 規子

百道の学舎を巣立って早や50年、昨年6月古希を祝う集いに参加しました。懐かしの2期生25名、亡くなった友に黙祷し、冥福を祈りました。卒業後始めて再会できた友もいて、学生時代に戻り、話に花が咲きました。今なお現役で福祉活動に専念し、バイタリティあふれる友の姿に、大いに力づけられました。私は保育所に数年勤務し、退職後は地域でのボラン

ティア、又趣味の会では卓球、染色等、幅広く学びました。時にはひとり旅、先日は長崎県の無人島、野崎島へ旅しました。運良く野生鹿の家族に出会うことができました。歴史を物語る野首天主堂、オパール色に輝く海、時が止まった様な静けさに心洗われました。今、世界遺産、九州遺産をテーマとした旅人養成講座を受けています。世界各地を回った旅の達人の愉快で面白い話です。自家菜園、バラの手入れ等しながら、愛犬福18才と田舎暮らしを満喫しています。皆さん、人生に感謝して楽しく過ごしましょう。県立大学の発展と同窓生のご活躍を祈念致します。



<集中してます、水墨画>

養成2期 村上 みさ枝
同窓会報編集の皆様ご苦勞様でございます。私も老いを無駄に朽ちるのは嫌なので、今集中しているのは「水墨画」です。去る十一月六日に私が師事している「西日本墨技学院」



の南北師と南紅師が全国学生水墨画普及の意で母校を訪問されました。全国学生水墨画会では全水研賛助作品として全国に波紋が拓けるのではないかと思います。で、母校の件ですが同窓生であることを告げると学校での感想を述べられました。校内に樹木もなく他の大学に比して乾燥、学校側、生徒にしても反応が弱いと思った事、学校の印象は人的物的環境にも左右される事など。母校にも種々の理由があるかと思いましたが、私は少し悲しかったです。この学院は日本国内外でも活動していて、私も拙作を出品するのにふうふう言っていますが、一流の先生に学ぶ事の楽しさ(苦しみも)を味わっています。何も水墨画を学ばねばならないと云う則はないのですが、この稿を投ずるに及んで躊躇も感じましたが、あえて送らせていただきました。ごめんなさい。寒冬に向かって皆様のご健康をお祈りいたします。同封の写真は今年の町の文化祭出品作品です。



<今が好き>

養成3期 井上 すみ子

日展を観て上野から本郷まで歩いた。湯島天神で菊祭りの寄り道をして、三四郎池に出た。水面に紅葉が映り、木の葉筏が浮かんでいる。赤門前には東京都美術館に毎年出展するため所属している日曜画家の本部が見えた。数年前、出展した絵の前で、養成4期の秋枝さんに逢った。奇跡のようであった。息子さんに逢い若松に戻る時間待ちだったとかである。帰省の折、妹(黒羽トミ子)養成9期と、学校跡を訪れた時周りの変貌に驚かされた。が今、生まれたばかりの養成所だったので、田川の地で、大きく発展を遂げた。県立大学同窓会も、多くの方々の御支援で成長した事を嬉しく思う。子育て後の遅い職場復帰で、市の保育園や施設を経て、現在某私立の中高女子校保健室に勤めている。都会で複雑な悩みを抱える子女の精神面の相談にのっている。絵は趣味、音楽は癒し、エネルギーは双児の孫から、という今が好き。



<90歳まで元気で生きていこう>

養成3期 原野 礼子

1954年4月、福岡市百道の県立保育専門学院に3期生として入学、まもなく、保母養成所となりまし

た。九大、教育大、西南大等よりの講師による授業で欠講が多く淋しい勉強でした。欠講時は、庭の手入れや倉庫の掃除でした。「卒業の際は、掃除の資格も下さいね」などと教務の村上先生を困らせた事もありましたが、なつかしい思い出です。1956年から96年まで40年、北九州市立保育所で保育者として働きました。楽しい事、苦しい事もありました。



保母の職業病として認定を受け、治療やリハビリの為、休暇を取った日々もありました。原田文枝所長（養成所）を囲んでの同期会の折り、「90才まで元気で生きてね。樹木が枯れるように苦しむずに死ぬるよ」と言われたことが忘れられません。90才まで元気で生きていこうと一日前向きに生きています。数年前より、ビハラー・ライン福岡・こころの電話相談でボランティアをしています。何かに役立っていることが嬉しい毎日です。

<雑感>

保母養成4期 仲吉 千代子



どこまでも続く百道浜、防風林の松林、西方に聳えるボタ山、赤煉瓦の刑務所の塀……。今はなき母校周辺の情景です。あれから半世紀が過ぎ去り、老人手帳利用者になった今、果たして卒業後、社会の一員として役立ただろうかと反省しきりです。はちきれんばかりの青春を保育一筋にと学んだあの頃が、恩師の横顔や、旧友の笑顔と共に堰を切って思い出されます。働く母親に代わって保育する事の重大さを学んだ保育理論や児童心理学、乳児院や施設での教育実習、特に加納先生のリトミックは、通学困難な程に足腰が痛み、互いに慰めあったものでした。寮生に早朝からピアノを独占され、やむなくオルガンで練習した日々が懐かしいです。反面、寮生の部屋にミカン箱の踏み台を使い窓から侵入して焼き餅のごちそうになるのも楽しい冬の一時でした。社会情勢は刻々変化し、産炭地振興対策の一環として、保母養成所も発展的解消の許に15期で終了、伊田の地で県立大学として力強く発展しています。保育科が消えた今、松美会員の淋しさは如何ともしがたいものを覚えます。同窓会一本化へご尽力下さった方々への感謝と共に、今後も一層のご発展をお祈りいたします。

<楽しい古希同期会>

養成4期 陣川 勢津子

「ああ、このあたりよね。養成所の時にみんなで歌った浜辺だよ。」今は変わってしまった百道浜でひとりつぶやいたのが昨日でした。昭和30年4月、福岡県立保母養成所4期生として入学、共に学び、遊び、生活し、喜怒哀楽を分かち合った同期生。還暦を過ぎてから同期旅行の四国路、日光に参加しました。昨年の秋は河毛淑子さんの計画で神戸へ。有馬温泉に一泊し二泊目の「しあわせの村」は障害者、高齢者、健常者が共に宿泊し、運動し研修する福祉の総合ゾーンでした。須ヶ原弘子さんが「くねくねグーパー体操をしましょう」の号令で身体を瞬間に動かせる全員。身体育成法の加納教授からのプレゼントですね。二十歳にタイムスリップしました。2006年は「古希旅行箱根行き」を楽しみにしています。ご自愛ください。



「はじめてのすいぼくが」

保母養成7期 佐東 恵子

ふれあい事業の一つとして、鹿児島県出水市公立の保育園で年長児に水墨画や生け花を教えるようになって4年になります。(子供たちは毎年変わります。)その日は、墨がついても大丈夫な服装で登園し、準備から後片付けまで喜んで手伝ってくれます。

生け花は年2回、母の日と卒園式の時のプレゼントの為に生け、母親に喜んでもらったり、卒園式の時は自分達の作品を飾り、一段と華やかさを添えています。

水墨画は月2回、墨の濃淡で描く水墨画と、その上に色を重ねる彩墨画を交互に行います。墨、水、



筆、その上床に正座をして描く。その様子を見て、最初は「ボク、かけない!」「ボク、イヤダー!」と拒む子もいたのですが、今では「ボク、大好き」「ワクワクするよ」とやる気満々に変わり、驚いています。ドキドキしながらも筆を持って思いっきり描く面白さを知り、自信も少しずつ芽生え、昆虫や草花にも目を向け、図鑑にも興味を示し、集中力も生まれました。一人一人の絵が慣れてきて、今度は一枚の広い紙に輪になって描く共同製作も取り入れ、四季をテーマにした4枚の作品を完成させ、県の美術館に展示され好評を得ました。

微力ながらも子供達の心の中に変化が見られ、幸せを感じます。これも担任の先生の心豊かさとの様な環境を与えてくださった園長(古城 恭一、田口 秀子)先生やこれを理解して協力して下さった諸先生方のお陰様と深謝致します。

今、出水市は一万羽を超える鶴が飛来し、朝、夕に乱舞が見られます。



<思い出を辿りながら近況を>

保母養成8期 関根 征子(旧姓：戸塚)

学校を卒業して、早いもので半世紀近く(45年)になりました。この間、同窓会も欠席続きでご無沙汰いたしております。会報にメッセージをとの事、さて何を書いてよいやら……思い出を辿りながら近況を綴ります。

保母の仕事は、栃木県佐野市で働いていたのを最後に主婦業に入りました。主人の仕事の都合で札幌を始め各地を転々として、やっと14年前に主人の実家(埼玉県)に落ち着きま



した。その後、大牟田の両親が相次いで病気で倒れ、看病のため年に何度となく帰省していましたが、その両親も10年前に他界し、今では福岡に帰ることは殆どなくなり故郷がなくなった思いです。健康の為にフラダンスやウクレレを始めて7~8年になりますが、稽古後のお茶のみが楽しみで現在も続いております。60歳過ぎから病院通いが多くなり、薬を携帯しての旅行やお稽古事を楽しんで暮らしております。

<Saluton!>

養成9期 大塚 紀子

Saluton!御機嫌如何ですか。何と、年末にかけて広島、栃木、京都と相次ぐ女兒殺害事件。続いて母が娘を18年間軟禁虐待事件。どうしてこうむごい心痛い事件が後断つ事なく起こるのでしょうか。国の宝として大切に育てられなければならない子供達ですのに。非常に残念です。子供は授かりものの、地域の宝です。虐待は子供を私物化しています。子供は個性豊かに、人として尊ばれ、育てられないといけないのです。少子化も大きな問題ですが、今は子供達を犯罪から守る事が先決です。「隣はなにをする人ぞ」ではなく、挨拶、声かけ、「よろしくお願いします」のコミュニケーション。言葉を交わす事です。大人も子供も、ほっ!とする時間、ほのぼのとした愛に飢えていると思います。今の御時世、仕方ないとは思いますが、こういう時にこそ、声かけが必要と思います。治安を地域で保てば、少子化も良くなるのではないのでしょうか。犯罪の低年齢化、怖い現象です。家庭に於いて日頃から“こんな行動はどんな結果を招くか”等、やさしい法律の会話も必要だと思います。犯罪に巻き込まれない、犯罪を起こさせない、安心して子育て出来る環境を地域で作り、我等が子供を見守りましょう。

<日野原先生との出会い>

保母養成9期 佐藤 節子(旧姓：長崎)

聖路加国際病院の日野原重明先生を御存知の方は多いと思われます。私は十年前、そして一昨年、お話を聞く機会がありました。日野原先生には、人間の死について学びました。かつて死について話すのはタブーとされ、なかなか語り合うことも少なかったのですが、必ずくるものとしての受け止め方を先生は広められました。十五年前、私は夫を亡くし癌の告知をしなかったことを悔やむ毎日でした。医学に関しての情報も多い中、本人がわかっている、もし家族が隠したら自分のために隠してくれて“ありがとう”という気持ちを持つ人間でありたいと言われた言葉が身にしみました。死に向かって自分の命をどう社会参加の中で使うかが問題である、とも。

夫を愛したように、高齢者や障害者の介護に、惜しみなく力を注いできたような気がします。生涯現役と言われる先生です。私もまだ指導ヘルパーとして現役しているこの頃です。

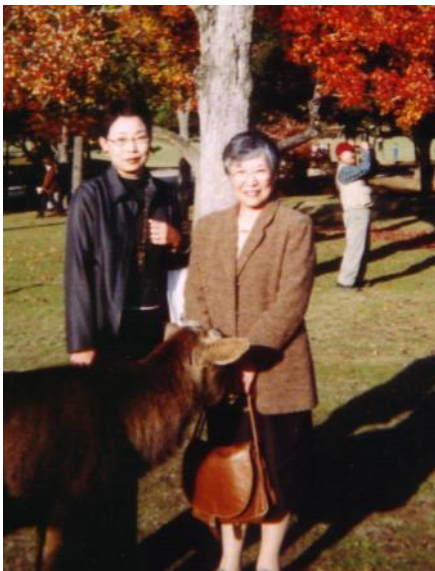


<ご無沙汰しております>

養成9期 保田 宏子

保母養成所9期生として、白砂青松の百道まで通学したのは昭和35年から37年までの2年間です。さすがに遠い日の思い出となりました。途中から関西に移り、今は退職して10年になろうとしています。仕事子育てを経て、今やっと静かな落ち着いた日々となりました。これから先、あまり人様に迷惑をかけないように一心掛は殊勝です。しばらくは社会との接点を持つべく非常勤の仕事しています。特に10代で母親になった若い人達の為のマザーグループでは、彼女達の安心できる(?)おばさん役をしています。世の中は持ちつ持たれつと言

いますが、彼女たちからたくさんのエネルギーをもらっている気がします。今夏、かつての同窓生上田さんに思いがけない電話を頂き、しばし昔を思い出しました。そしてかなりな不良同窓生である事を思い出しました。おわびの気持ちをこめて近況のご報告をします。



<母の思い出>

養成9期 山脇 光子

私の母は、戦時託児所から始まり、光保育園の保母として、園長として民生委員として、地域の皆様に本当によく交わって戴き暖かい人の和の中で88歳の生

涯を生きた人でした。“握手でこんにちは”人が来るのを待っているのは駄目、自分から進んで手をさしのべるときっと素晴らしい出会いがあるものだと、又何事か困った事が起きても「必ずよくなるから、心配しなさんな」とおまじないの様な事を言っていました。すると、どこからとなくよい風が吹いて良い方向に行くと云う、不思議な人でした。でも困った事が起きたら、必ず一生懸命にやればよくなると信じる事にしています。母が亡くなって、もう少し親孝行をしておけば良かったと思う今頃です。

“病得て、逝く朝にも微笑ふくみ、子の幸願う母の手いずこ”

<無事に三月に退職することができて

(40年間の重み)>

保母養成12期 花田 政枝

40年間働いて、途中、交通事故に遭って3ヶ月休みましたが、今振り返ると40年とはすごいなあと思つづく感じます。仕事を辞めたいなあと思つたことも何度もありましたが、誰も食べさせてくれる人もなく、働き続けるしかなかったのが本音です。

「今日は休みたいなあ」と思つて重い気分保育所の玄関まで来ると、子供たちの元気な声が耳に入ってきて、その瞬間スイッチが切り替わり、身が引き締まり、保母の私になれるのは不思議でした。あの子供たちがいたから働いてこれたと思います。そんな生活も3月に終わり、父の介護、農業、家事と忙しくして、片付けが出来ず、二部屋まだそのままになっている次第です。

8月に保母養成所の同窓会がありました。卒業して40年、主婦を続けてきた人、家業を手伝っている人等いろいろでしたが、私のように働き続けて3月に退職した人は少なかったのには驚きでした。今回の同窓会は必ず出席しようと決めていました。今までの失礼を詫びると同時に、長い間同窓会の役員をしてくださった方に感謝の気持ちを伝えるため。お盆過ぎ博多まで出かけました。部屋に入つてすぐに思い出せる友、誰だったかなと2.3分かかる友、話し出すとすぐに学生時代にタイムスリップして、色々な思い出、その後の生活など、時間の経つのも忘れてワイワイにぎやかでした。次回は2年後に今回欠席した人も出席して下さる様に願つて……



<伝承遊びは幸せの伝承>

養成13期 中村 信子

「大自然の中で、自然な保育」が目標の保育所に勤務して29年目……63才にして現役で頑張っています。子育て支援センター“ひだまり”を立ち上げて2年10ヶ月、母子で300人が登録し9グループに分かれて来ています。母親が心ときめいて“楽しい”と思える企画をしながら、ひとりひとりありのままに過ごせる場を提供しています。と同時にほっとできる空間を配慮しています。親子で楽しめるわらべ歌遊び、お手玉遊びも取り入れています。お手玉は、地域の人達も巻き込んで世代を超えて、あたたかいふれあいを分かち合っています。山口の地に根付かせたいと、毎月1回一昨年の12月から続けています。

「わあーおちた」「できたよ」笑顔がはじけます。見ている子ども達もニコニコです。参加者全員で大きな輪になり♪あんたがたどこさ♪のうたを歌い、ながらお手玉を隣の人にわたしていく遊びは笑いのうずが心ときめかせてくれます。12月にお手玉会創立1周年を迎えました。記念講演に熊本の医学博士中原和彦先生をお呼びしました。「お手玉が癒やす心とからだ」のタイトルで、120人の参加者の皆さんにとっても喜ばれました。「楽しい時間をありがとう」とか「幸せな時間に感謝」などのコメントがありました。日本の伝統文化 お手玉に今燃えています。伝承したい！！と。



<ありがとう>

養成14期 松野 トミ子

暮れになると、一年間に会った人達や物事が思い出され、改めて「ありがとう」のことばを送りたくなる。まづは自分自身へ「健康体でいてくれて、ありがとう」である。「ありがとう」を言わなければならない一人に老婦人芳子さんがいます。この方は今秋冥土へ旅たれました。戦後三人の子供さんを立派に育てられ、折りにふれ、私は彼女のことばの中から、安心と励ましを頂戴している。「仕事ば

かりしては、駄目ですよ。仕事の手を休め、外へ出て、空を見たり、風にあたり、草や花を慈しんでください。自然が教えてくれますよ。」次男さんが職場で係長に昇格された時は、「皆さんのお役に立つ人間になってくれてうれしいですね。」とにこやかに語ってくれました。その時々表情が美しかったことが思い出される。ボランティア活動に参加し、子ども達を保育する中で芳子さんが語ってくれた「ことば」を思いだし、「ありがとう」を言っている私です。

<人生楽ありゃ苦もあるさ>

社保短3期 進 久美子



長かった保育士（20歳から55歳までに約30年間）に別れを告げました。その間には、公立・私立に於ける賃金格差、正職とパートの労働条件の違い、民間中小企業の男女不平等の実際などを、表から裏からうかがい知ることが出来ました。パート保育士（派遣社員）を経験したときには、社会保険もなくなりました。そこで方向転換し、ホームヘルパー2級取得・ガイドヘルパー講習を受け、グループホームに就職しました。グループホームでは、軽度・中程度の認知症の方々が個室に入居し、スタッフの援助を受けながら共同生活しています。24時間体制なので、スタッフに盆・正月はありませんし、身体が資本の職場です。何処まで続くか保証はありませんが、「自分の生活は自分でしなさい」という自立した子供達に時々甘えながら頑張ってみようと思います。「人生楽ありゃ苦もあるさー」と言う間に、残りの人生を歩き始めました。結婚・離婚・子育て、子供達の就職、結婚と続き、孫二人となりました。同居していなければ、ノー天気となるようです。お正月前に出かけた美容院で「若くなりましたね。」とお世辞を言われ、ニーツとしているところです。



<祈り・・・>

社保短9期 松本 由美

母が逝ってから3回目の冬、生きていてくれたらと思う事が多くて、なかなか前に進めない自分があります。夏休みに娘たちを連れて帰省すると、兄の家族たちもやってきて母は孫6人に囲まれ嬉しそうでした。お膳いっぱいに並ぶ母の手料理は本当においしくて、「幸せ」というのはこういうことなんだな



あと感じました。娘たちにとっても母は単におばあちゃんではなくて、何事に対しても対等にきちんと意見を言っていく頼もしい存在だったようです。学校での出来事で、ほめてもらいたいことや悩んでアドバイスがほしいことがあると、ま

ず母を思い浮かべたそうです。これからは生きていく自分たちが、母を思いだし語り合い、仲良く暮らしていくことが母に対する祈りにつながると思います。人を喜ばすことが好きだった母の生き方を見習いたいと思います。

<元気ばい たがわで生きとるばい>

社保短13期 大瀬 瑞穂(旧姓：高辻)

田川で生まれ、田川で育ち、田川で就職しはや25年。現在は田川市教育委員会生涯学習課に在籍。県立大学市民公開講座や0歳期教育親子教室などの事業で県立大学と関わり、学生たちのエネルギーと教授たちの知恵は、地元田川にとってかけがえのない宝だと痛感。

ところで、卒業生と知り合うと、みなさん「なんにも無い田川」を懐かしく思っているようで。コンビニがあちこちに出来たと言うと「えー、コンビニが田川に!」(昔は角の店しかなかった)。スーパーあそうが齋場になったと言うと「ジャガイモを1個とか買ってたよ。それが齋場?」(高齢化社会の象徴かも)。大学がおしゃれな校舎になったと言うと「建て替え前はダニが出たよね」(女性の園とは思えないほど汚かったし)。と盛り上がる。

来年は炭坑節の大きなイベントが11月3日にあるばい。卒業生のみなさん、懐かしい田川に遊びに来てみんなね。

<最近思うこと>

社保短社会福祉科21期 峰岡 佳世

昨年末、下校時の子供が狙われた事件が相次いで起こった。同じ子供を持つ親として、ただただ悲しくてやるせない思いがする。昔と一体何が変わってしまったのかと思う。

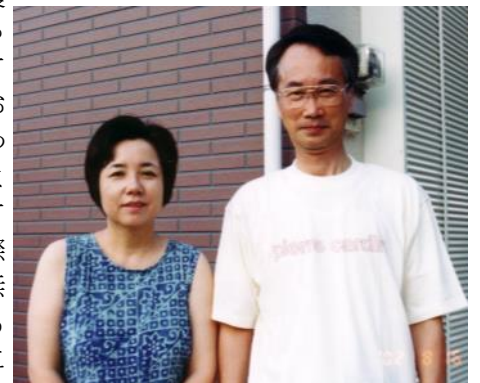
新聞で、親や地域の防犯ボランティア組織が紹介されていた。佐賀県東部の町に、ある事件をきっかけに始まった地域の見守り活動、23年間続く防犯ボランティアがあるそうだ。人操り、資金等の課題もあるが、23年続いているそうだ。どこの地域にも同じように当てはめて出来るものではないし、私自身も何が出来るかはわからない。今は、2才と8ヶ月の2人の子育てに追われ、1日を過ごすのが精一杯なのが現実である。けれど、子供は親が守るんだという気持ちを自分も周りも失ってはいけないのではないかと、思う。公園では集まってくる誰もが楽しく遊べ、登下校は子供達だけでも安心して道を歩ける、そんな当たり前の、当たり前だった風景をずっと残していくために何か出来ることはないのかと感じている。



<思い出>

保健婦養成1期 中山 綾子

私の実家の近くに中山弘道先生(九州帝国大学医学部卒、後の九大第一内科同門会長)というお医者様がおられた。その先生の親父上は石庭さんといって私の両親とは大変親しくお付き合いをさせていただいていました。石庭さんから、子供の名前を付けていただいたという事をよく耳にしていたので大家だったらしい。女学校の帰り道、中山弘道先生にお会いすると「鰻をたくさん取ってきて泳がせているからみにおいで」とか言われたりして、よくお声をかけていただくが実際に伺った事は無かった。又ある時は「他の所に



は嫁に行かないで・・・未だ学生だけど家に・・・」と言われて、まだ先の事はわからないものをと内心思って笑いながら別れた事もあった。その学生さんというのは野球少年として新聞に載った事もあり、近所の人にも勉強と野球をよくする人と言っていた中山弘道先生の一番下の弟さんの事であった。女学校も卒業が近い頃、町内の小野欽平さんが何を思っただか「中山さんの野球を見に行かんかね」と言われた事があったがお断りした。私の父は弁護士でしたから、女の私にも何かの資格を取って欲しいと言っておりましたが、時々我が家に来られる父の友人のお客様が「女は勉強させたらいけない、女学校を卒業したら花嫁修業が良い」と言われた、時には夫婦で来て私と私の両親を前にして度々言われたのである。その頃から勉強意欲が失せて、のんびりした日々を過ごすようになった。内心は勉強せねばと思っても遊び癖がつくと人間は楽なほうに流れるもので、結局は大学受験を諦める結果となり、花嫁修業をする事となった。福岡県立福岡高等女学校（現在の福岡中央高校）卒業で勉強の時代が終わってしまったのであるが、遺憾の念が強く残ってしまったのは確かである。中山弘道先生の弟さんの為春さんが昭和17年9月に医学部を繰り上げ卒業となり、10月1日に久留米四八部隊に入隊されるとの話で、10月1日近隣の方々達と共に天神の福岡駅から西鉄急行電車に乗られるまで皆でお見送りをしました。昭和20年8月大東亜戦争（太平洋戦争）が終わり、昭和21年のある日、中山弘道先生のご来訪を受ける。帰られた後で、父が母と私を前にして弘道先生の話伝える。「弟の為春が戦地から無事に帰還しました。父（石庭、昭和20年12月没、為春の帰還を待たずに死去）が生前に二人の結婚をと言っておりました。遺言みたいなもので・・・」というお話でありました。そんな経過で昭和21年に中村為春医師と結婚いたしました。昭和27年頃に私は体調を崩し、貧血で寝込んでいました。丁度その時に夫が診療している隣の部屋に看護婦が保健所の人と言って案内してきた。雑談で「保健婦養成所（後の福岡県立看護専門学校、現在の福岡県立大学看護科）の一回生の入学試験が・・・」という話が聞こえて来た。女学校だけで

勉強をお終いにして心残りであって私は一大奮起して受験して県立保健婦養成所の一回生として合格となる。授業で全身清拭があった日は自分の子供（一人っ子、当時は4才）で練習をした。気持ちよさそうに満足な顔をして拭かせてくれる「はい、今度はお背中マッサージ、はい今日はこれで終わり。」翌日も又拭いてと言ってきたので「じゃあ3回で終わりにしよう」と言ったら「分かった」と言って結局3日間で何も言わなくなった。その子は長じて医師となり3人の子供の父親として、今年の4月に夫（87才で脳梗塞で死去）を亡くした私と同居している孝行者となり毎日を感謝して過ごしている。

<第二の人生を楽しむ>

保健婦養成5期 中村 淑子

退職して11年、第二の人生を楽しんでいます。旅行好きな私は、退職後の人生をたてました。60歳代は海外旅行、70歳代は国内旅行、80歳代は県内旅行、90歳代は校区内旅行、100歳代は隣組内旅行と。そして足腰鍛えるために、今年地域の「歩こう会」に参加し、四国の石鎚山にも登ってきました。今までに17～8カ国へ24～5回海外旅行をしました。日が経つと、写真でないと思い出は残らないからと多くの写真を撮って来ました。写真ボックスに数10冊のアルバムが並んでいます。今はゆっくり見る時間がとれません。今、70代、国内旅行とはりきっていますが、友人を誘うとすでに旅行している人が多く、なかなか思うように進んでいません。今は地域の6つのサークルに入り、時々、箏のボランティア演奏をしたり、市民プールに泳ぎに行きます。発表会が重なると少々パニックになったりしていますが、たくさんの友人、知人と仲良くなりました。そして今までに知らなかったことを知る喜びを味わっています。韓流ブームにもものせられています。現役時代、『「わくわくホルモン」や「さわやかホルモン」をたくさん出すような毎日の生活を心がけましょう』と話していたことを思い出しながら・・・。 2005年12月14日記



<近況、その一幕から>

保養8期 福田 柴江

先月快晴の日に、雄大な阿蘇の山脈に身を委ねていると、イギリスの作家ロアルド・ダール氏のガラスの大エレベーターが、私の視界に入ってきて、「空の先の先の先がガラスの大エレベーターが自在に昇降しているの。プラス国のワンカ=ビタって1秒で1才の年を取るし、マイナス国のビタ=ワンカは、1錠で20才若返るんだって。一気飲みが条件だっ

て。”と、空間との相互作用を愉んでいると、有機体は宇宙を突き抜け“グー！”と着地すると爽やかな心や良い風がスーと全身を撫でた瞬間に、阿蘇の山脈の現実に戻っていた。この大空の先の先の空間へのお誘いから私の有機体の中に何だか不可思議なるエネルギーによる“新しい安寧”(仏看護理論によると)が生じているのをお伝えし、幕を閉じさせていただきますよ！

<田舎暮らしを楽しむ>

保健婦養成8期 牧野 英子

在職、三十五年仕事と家庭を如何に両立させるかに随分苦しみました。退職後十年がたち今の私には充分な時間があり、一日二十四時間自由に使うことの出来る喜びに浸っています。そこで季節の野菜や花を育てることにし土づくりから始め、苗を種から育て無農薬により有機肥料による栽培で夏は害虫と雑草との戦いです。曲がった胡瓜やなす、虫食いのほうれん草など食卓にのぼるまでに多少手がかかるが気にせず頂く、台所から出る食物の残りはすべて肥料として畑に返し可能な限り家庭からゴミを出さない努力をし、米のとぎ汁その他汚水も土に返す等



人にやさしい事は地球環境にも良い事だとの思いから継続している。「ゴーヤ」「ウコン」等はお茶にして楽しみ最近では、季節の果物でジャムを造ることはまっています。時間を自由にできることの幸せを改めて感じる昨今であります。このように思えるのも在職三十数年きびしい時期を経験したからこそだと思われま。今後も自然の恵みと健康に感謝しつつましく生きたいと念じています。会員の皆様におかれま

してもそれぞれのお立場でのより一層のご活躍をされますことをご祈念申し上げます。

<生きる力を信じて>

公衆衛生看護11期 新海 美恵子

今年もおかげで、久住山頂に立つことが出来た。毎年十一月の紅葉の時期に、七十歳を超えた高齢者ご夫婦と三人で、山頂を目指してゆっくりと一歩一歩各自の体調に合わせて、“きつと、山頂にたどり着くよ”と言いながら、毎年山頂を目指している。

今年も、三人で登ることが出来たことの喜びが、込み上げて来る。健康を確かめることが出来た。今年で5回目である。私が県立学校を退職して、社会福祉協議会の健康相談をお手伝いしていて、お知り合いになったご夫婦である。病気がちで、ほとんど運動には、縁のなかったご夫婦で、週に2～3回のウォーキングから始め、少しずつ近くの山へ体をならしつつ、一年に一回の久住登山を目標に、大きな夢を持ち無理をしないで毎日を歩いている。今は、高齢者の方との出会いが多く、自分自身の研鑽の場でもあり、保健師の免許を持っている事に感謝しながら、今からの人生を元気で過ごせる間は頑張りたいと思うこの頃である。



<やっぱり、保健師>

公衛看護14期 池田 カズヨ

38年間勤めた保健所、退職後はゆっくり自分らしく生きようと決めていたのもつかの間、宮崎市のショッピング街のコミュニティスペースで「まちの保健室」の室長として仕事をしています。私にとっては、長年の保健師活動で培った生きざまをいろいろな方に評価していただく場所かも知れないと思い引き受けました。ゆったりとした生活の中で、ショッピングを楽しみ、その途中に立ち寄り話を聞いていただくだけで生きる力がわいてきたと何度も御礼をされる80歳の女性や、市外から40分位車を運転して、毎回(週1回程度)「まちの保健室」をショッピングコースに入れて血圧を測っている70歳代の男性など、仕事のこと、結婚の事、家族の事、子供の事など自分の気持ちを整理する心休まる場所として利用していただいています。人と接することから生まれる感動や感謝の気持が私の心を動かす「まちの保健室」でさまざまな知恵や生きる力を吸収しながら「やっぱり保健師」しか活かせないのかと苦笑しながらもうしばらくがんばろう！

<もっとほしい障害者への理解!!>

公衛看護17期 梶原 ヒサ代

私は、昨春知的障害者自立就労支援に指導員として関わった。これは厚生労働省の「一般校を活用し

た障害者職業能力開発事業」で障害者の職域拡大を狙ったものである。ホームヘルパー3級の資格取得が出来る訓練科目を準備した6ヶ月間のプログラムである。私自身、当初は不安を抱えての出発であった。確かに個人差が大きく訓練は決してスムーズではなかった。しかし、ベッドメイキング、車椅子介助、その他の技能も根気強い反復訓練の中で、きっちりこなせるようになった。もともと優しい彼等が、利用者に心のこもった声かけが上手に出来るようになった。数ヶ所の現場実習に、休むことなく出席。時折弱い自分と斗いながら前進しようと努力する姿に、感動で涙したこともある。彼等は大きく成長し、7人各々の個性が光る。クラスメートの中に熱い友情と連帯も生まれた。しかし、残念ながら実習は受け入れて頂けても就職となるとなかなか困難。只でさえ不況風が吹きまくる厳しい現実。とはいえ、こうやって頑張る彼等が力を発揮できる社会こそノーマライゼーションの実践につながるのだと思う。訓練期間の延長、就労の積極的支援等国全体の課題として、もっと具体的施策として進めるべきだと思う。又何よりも、私達自身がもっともっと障害者への理解を深めなければならないと痛感した。



<遊びのすすめ?>

公衛看17期 福味 憲子
冬の寒さが身に伝わるようになり、よくよく考えると今年還暦。卒後37年。あの六本松の古いきしむ校舎（何故かトイレだけは水洗）で学んだのどかな日々や、痴漢出没で怖いような楽しいような出来事等が思い出されます。また凄く膨大なカリキュラム。いかに先生方が信念と情熱を持っておられた



か、今になり頭が下がる思いです。でもね、保健師といえはほぼ一様に真面目で堅物、独特の気風をもっているように思われています（私の偏見?）。そして、何故かこの真面目さが人を振り向かせない。楽しいことには人は自然に群れる。私が仕事をとおして思い知らされたことです。退職した最近の私にかなり活躍してくれているのは、遊びで覚えた知識です。今からの私は善人ぶらず、時には一人でこっそりほくそえむ。こんなちよっぴり可愛い悪の遊びを覚えようとしています。

「当面の目標」

公衛看18期 太田 弘子

今、私は、夜間定時制高校の養護教諭をしているが、定年まで後2年余りとなった。2005年4月に転勤した折「後3年。日数にすると千日ちょっとしかない!」と妙に意識し「生徒や自分自身に対して、悔いのない仕事をする事」を改めて誓った。

7年前から生徒をよりよく知るために、思春期セミナーを受講し、思春期保健相談士の資格を取り、日本思春期学会に所属。また昨年2月に設立された九州思春期研究会にも所属、(会長は森崇先生、松浦賢長先生所属)最新の情報や刺激を受け、健康教育に役立っている。

平成9年「養護教諭の新たな役割」として「健康相談活動」が保健体育審議会答申で提示された。子供たちの心の問題が深刻化し、しかも身体症状と深く関連し、心と体の両面からの対応が今まで以上に期待されることからの答申であったが、昨年初めに学会が設立されたのを機会に、新たにこの勉強をしておすこととした。理論と実践を統合し力量をアップすべく、かなり上京した。すべて自費研修なので、お金と時間を費やすのも、夫の理解と協力があればこそで、感謝している。今までより生徒への対応にも心身との関連を意識し、保健室の施設・設備などもフルに活用し関わるようになった。

勉強は、頭にはすんなりと入らないことも多いが、学ぶことで刺激を受け、再確認し、自信を持って対処できる。学ぶことの面白さも実感!私の役割は、生徒達にとって「母港」「添え木」としての役



割を果たすことだと思うが、また仕事が楽しくなってきた。

私の当面の目標は、「定年まで一日一日を大事に、元気で頑張る。最後まで努力を惜しまない!」ということだ。

<チームの思いやり>

県看護師科3期 上村 寛子



太宰府の寮を旅立ち30年です。結婚をきっかけに、横浜に来ました。近くに知人もいなくて、子供ができれば退職も考えていました。でも同年代の看護師が多く、子育てしながら頑張っているのに刺激され、仕事を続けることができました。今思うとチームの

思いやり、又主人や2人の子供達に支えられ今日があります。若い頃、白衣に憧れ看護師になった訳ですが、理想と現実は大変でした。急性期(救急)と高齢者の多い病棟でゆとりもなく、体が2つ欲しい位の忙しさです。家に帰れば食事を待っている子供達、家事に追われる日々です。でも何故か今もピンクのユニフォームを着て頑張っています。チームの中にと元気がでてる私です。今一番の楽しみは、友人との旅行です。今年、オーロラが見たくてフィンランドへ行きましたが、飛行機の中からは見れなくて残念!次は肉眼でぜひ見たいと思います。まずは、健康に感謝して!3回生の皆さんにもぜひお会いしたいですね。

<統合された同窓会>

県看保健師助産師2期 安河内 節子

昨年8月21日は、県立看護専門学校が県立大学に統合されて初めての同窓会に出席しました。県立看護専門学校では、それまでに本川先生を中心に同窓会のあり方を検討してきました。その結果、県立大学の同窓会の方々に快く合同の道を開いていただくことになり、県立大学の同窓会の方々に感謝しています。看護専門学校保健師助産師科2回生の代表として数回幹事会に参加させていただき、県看の歴史が引き継がれたことに喜びを感じています。保健と福祉施設で活躍されている方々と同じ同窓生でその中から地域の問題や連携を考えるシンポジウムが出来ることはすばらしいことと思



い、今後も出来るだけ総会に参加する予定です。県看卒業生の方には、この統合された同窓会を見守り一人で

も多くの方に参加していただきたいと願っています。私事ですが、放送大学に8年間席を置き、やっと卒業研究を手がけているところです。なかなか完成しないで苦しんでいます。気分転換に11月26・27日看護学校のクラス会で京都の嵐山に行ってきました。

<楽しきかな在宅介護>

県看・保健師科4期生 小泉 孝子

「お父さんのお加減どげんですか」知人や近所の方によく言われます。私は「楽しく介護しています」と答えます。「はあー?そうかあんた保健師さんじゃけんの」大抵の方がそのように納得されます。決して楽しいことはありません。しかし私には、「助けて!」と言えないのです。父92歳、母89歳、私62歳、老々介護真っ盛りの家族です。頸椎損傷で身体障害2級、認知症も進行し要介護4の父、今年の7月まで週3日のデイサービスを利用していたが、通所施設よりSOSを出され、在宅介護を決断、体重70キロの父の入浴と、通院介助が最大の肉体労働にバテ気味、しかし「ありがとう」と父に言われると、つい力をこめる私、時々「どなたさんですか?」と私を忘れられると、力が抜ける私、泣き笑い介護人生です。

<卒業して28年たった今>

県看護5期 井本 邦子

看護科を卒業して28年間、現在も独立行政法人 国立病院機構 菊池病院で働いています。精神100床、認知症50床、重度心身障害児(者)80床の病院です。以前に動く重心児(者)と呼んでいましたが、現在は強度行動障害といっています。人間というものにおもしろさを感じ就職した訳ですが、毎日が驚きの連続でした。

一般に精神科は恐いイメージがありますが、実際はいろんな人がいて、人として、母として、私自身が学びになることばかりです。人それぞれ生活環境は異なりますが、病気になるのは当たり前のような方もいます。

私自身、子育ては大変でした。愛情を持って育てる「普通に育てる」ことが大変難しいということがわかりました。子供達が成長していく中で、悩んだ



り困った時、相談できる職場の先輩が沢山いてくれてとても助かりました。いろんな顔があるように、1人1人成長は違い、困ったその場面でのアドバイスをもらいました。仕事も家庭もプロセスレコードおこしのような日々でした。結婚して25年、長男は就職して2年目です。長女は大学3年生で毎日勉強に頑張っています。夫も相変わらずお仕事に頑張っています。

私の周りの全ての人のお陰で今まで仕事を続けてこられたと感謝しています。腰痛はあるものの、水泳とミニバレーを楽しみにしています。ちなみに看護学校の友人たちとメールのやりとりをしています。福岡、鹿児島、長崎とバラバラに住んでいますが、お互いいつもそばにいるようです。残念ながら東京の友人が心疾患で亡くなりました。「お互いこれからどうなるかわからない。会える時に会って楽しめる時に楽しもう」と『みずき会』を結成しました。年に数回会って食事をしたり、旅行に行き、お互いの仕事の相談や家族のことも話しています。来年は「屋久島」に行く予定です。

これからもいろいろな出会いがあると思います。その時を大事にしていきながら、生活を楽しみ、仕事も楽しみにして生きていきたいと思っています。

<子供は親自身を写す鏡>

県看看護14期 村田 かよ子

書くか書くまいか、すごく迷いましたが、この時期に近況を知らせてというのも、運命なのかもと思いいペンをもちました。私の家族は、主人、長女（8才）次女（4才）長男（2才）祖母の6人で、祖母とは次女が生まれる前に同居を始めました。家のことはすべて祖母にまかせ、私は看護師を続けてきました。去年の終わり、突然義妹が大手術を受けることになり、祖母が看病のため奈良県から新潟県に行ってしまったのです。楽天的な私は、まあなんとかなるやろと思いきや長女を学童保育へお願いして、現状のまま、仕事を続けていたのです。1ヶ月くらいたったある朝、長女が「学校へ行きたくない」と言いだし、「えっ?」「なんで?」ビックリするやら、いらいらするやら、理由を聞いても、話してくれず、学校へ行けなくなってしまったのです。娘の心の中に近づこうとすれば、するほど、いらいらしたり、物をなげだし妹達をつきとばしたりと私自身かなり動揺し、「これはいかん」と仕事は休職したのです。休んで、子供と真っ正面から向き合い、抱っこし初めて、心の中の叫びが聞こえたのです。

「お母さん、私はおば一ちゃんじゃないのよ!」
「私も子供よ、いっしょに寝たいし、お風呂も入りたい」「お母さん、甘えさせて」と。仕事をしている時の私は、時間におわれ次のこと、先のことばかり考えながら生活するのに必死でした。手のかかる下の子に振り回され、長女は祖母のかわりのように手伝ってくれて当たり前だったのです。TV

ばかりで、しないと私もイライラしていたし、娘の表情もみていなかった。夕食も立ってすることが多く、子供達だけとりあえず食べさせて洗濯したり、次の日の夕食を準備。私の心の余裕などまったくなかった。子供の出した赤信号は、実は私の赤信号でした。今、子供と向き合い、そばにいて、ゆっくり食事をとりゆっくり話をし、少しづつ娘の表情が変化して自分の言葉で気持ちを伝えてくるようになりました。朝になると、制服になかなか着換えられなかったりやっぱり行きたくないという日もありますが、少し話を聞くと登校できたり、「お母さんと一緒に行く」と学校まで一緒に行ったり、給食も一緒に食べさせてもらった日もありました。(笑) まだまだ、毎日が不安でたまりませんが、待つことに決めました。せっかちな私にとって待つことほど難しいものではなく、これは神様が私に与えてくださった心の勉強だと思ふことにしました。この3ヶ月間、非常につらく苦しい毎日でしたが、職場の方、学校の先生、カウンセリングの先生、近況の友達にささえられ、人の心の温かさをこんなにも感じたことはありませんでした。時には立ち止まることも必要なんですね。立ち止まって見えてくるもの、聞こえてくるものを大切にしながらも、今年は看護師復帰を目標にできることから少しづつ歩き始めようと思っております。長々と申し訳ありませんでした。

<臨床復帰>

看護20期 岡本 智子 (伊勢田)

11年ぶりの臨床というよりも、たった3ヶ月の臨床経験しかなかった私には、素人の就職に近かった。嫁いで11年、農業は嫌いではない、むしろ好きな方だ。けれど、臨床に戻り(?)たい。ビニールハウスの花畑で、ぼんやり思った。“このままでいいのかな。”と。看護協会の斡旋では、前代未聞の浅い臨床経験なので、係りの方の顔がひくひくとひきつっていた。不安がなかったわけではないが、それ以上に、“前代未聞なら、新記録をつくつたる!”という意気込みの方が強かった。お陰様で就職して2年になる。在学中はとても嫌な子で、今更ながら、先生、先輩方同窓生の皆さんに申し訳なく思う。そんな私も改心し、毎日幸福と思える人間になれた。逆境や家族の支えがあったからと思う。まだまだ始まったばかり。数年後の夜勤デビューを夢見て、のんびり、まったり、進んでゆこう。

<お詫び>

○同窓会会費納入をコンビニから出来るようにとの声をたくさんいただき、事務局で検討いたしました。現在の納入率では、コンビニ納入の手数料の方が高くなってしまい、実施することができません。会員の皆様には、郵便局振り込みだけで、ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承ください。

HOT MAIL 私のこの頃

(平成17年9月現在)

<福岡県立保母養成所>

保母養成2期 梅崎 昭子

古稀を過ぎすっかり弱りました。去年はどうやら「熱中症」にかかったようで、高熱、点滴など病院の往診を受け、ついに訪問介護を有料で受けることになりました。私が元気な時は「いつでも言ってもいい」とまわりはやさしいですが、現実はずいぶん違います。私はまだヘルパーさんと呼べるし、側についてもらうだけで、不安はやわらぎその点「ひとりぐらし」の高齢者にはありがたい制度だと思います。しかし、私が出会った人で、介護のプロでありながら私の機嫌ばかり伺い、「大丈夫？」を繰り返して聞かされて不安になりました。「もうわたしがきたから大丈夫よ。心配せんで」って言ってほしかったんです。今年は、自分の体を観察しながら、お医者さんの指示を受け、水分補給、栄養を考え「熱中症」対策を講じ、元気になっています。病気になって益々恵まれない子供たちの寂しさがわかるようになり、世間の皆さんが不安をかかえている高齢者や、恵まれない子供たち一人ひとりに心を寄せていただいたら、安心して元気に生きていける世の中になるだろうととしみじみ思うこの頃です。



保母養成2期 鳥口 礼子

退職してはや10年、若い時よりやっていた茶道を中心に70歳の手習いともうしますか、今年4月より声楽を現在はまだ発声練習の日々又茶道に関する歴史の勉強に週1日通っています。ゆっくりと旅をしたいと思っています。

保養2期 村上 みさ枝(葛山)

近年の小、中学生の母子関係が気になっています。周りから我が子のことを注意されると逆上する母親をよく見かけます。信じることも大事ですが、我が子の本当の姿を知ることは学校や社会を鏡として恐れてはならないと思うのですが。保育、教育の重大さを痛感しております。私事としては、『よむ、きく、はなす、かく』は平常のことなので、後は運動だけだと思いい、柄にもなく年がいくもなく、太極拳を始めたら、3ヶ月位で首から上を痛めて頭痛も含めて現在治療中です。(断じて太極拳のせいではない。私がどんくさいだけです。)

保母養成3期 原野 礼子

平成8年3月に保育所を退職して10年目です。2年間の研修を受けて、ビ・ハーライン福岡・こころの電話の相談員をしています。悩みの多い世の中、色々難しい電話もありますが、1対1で向き合って悩みを聴き共に共感し合えるうれしさがあります。まだ私にも「できること」があると言う嬉しさがあり、1回1回が新鮮です。体力の続く限り取り組みたいボランティアです。

保母養成5期 九玉 庸子(熊谷)

古稀を前におばあちゃん役をつとめています。7月現在、孫2人10月に1人増える予定です。介護を受けています。

保母養成6期 石垣 香代

都内の公立保育園に奉職し39年間無事に終えることが出来ました。その後専門学校で講師をさせていただいて居ります。趣味で始めた手話が学生たちに大受けし講義に役立って居ります。これも養成所時代のみなさまに感謝します。

保母養成8期 広瀬 須代子

退職して5年目、1年目はゆっくりと2年目から市役所生涯学習課で社会教育指導員で人権係をしています。そして現在に至っています。なかなか難しいです。今年当番の年でもあるし、会えるのが楽しみです。

保母養成8期 松清 トモ子(山本)

私の住んでいる寺の庭に牡丹や蓮などを育てて楽しんでいきます。学生時代からやっていた俳句はいまも続けています。豊津町の公民館や寺で俳句会をしています。25歳の時に句集「胡桃のはなし」50歳の時に「小鳥のはなし」を出版しました。第3句集を考えています。また、子育ての合間に書いた童話を今整理しています。

保母養成9期 真野 征子(石橋)

来年は私自身がシルバー手帳など頂ける年となります。(65歳)しかし、90歳になる母の介護が続いていよいよ老々介護の覚悟をしなければと思っています。私共の世代が親を看取る最後の世代であり子供に看てもらえない最初の世代だそうですから、それなりに覚悟と工夫が要りそうです。同窓会で色々な方のご経験話しが伺えたら大変有難いです。

保母養成9期 山脇 光子(江田)

調剤薬局の経営に頑張っています。人生の終盤戦に来て未だ仕事がついてきます。健康と相談しながら、無理をしない事をモットーに頑張っています。気持ちは昔と変わっていません。(自覚症状なしなのですが……?)

保母養成9期 大木 正子(山方)

少子化、高齢化等心配な事ばかり。保母養成所で子供は3人以上産まないと言兄弟の働きをしない等、基礎的な事を教授陣から教え込まれた気がする。私は2人しか産めなかったけど、4人頑張った同級生が2人います。頭がさがります。少子化だからこそ、保育所問題が超重要。女性が安心して働けるようにしないと、子どもは増えないと思っています。

保母養成9期 黒羽 トミ子(久保田)

横浜市役所を定年退職しまして5年目になります。現在はコミュニティハウスに勤めております。高齢者が生き生きと生涯学習に励んでいる姿に刺激され頑張らなくてはと思っています。

保母養成9期 大塚 紀子(中原)

○憲法9条死守したいです。

○スローライフ心の豊かさ取り戻す工夫したいですね。

○教育の基本は1つ、人の道我々が幼児、伸び伸び伸びよ!

保母養成10期 山下 藹子

2005年4月より、中村学園大学大学院にて「人間発達学研究所」で勉強しています。往復5時間かかりますが、毎日小旅行です。ゆったりと汽車にのり季節の変化を実感しながら新たに美しい日本の自然に「ほっと」した時をすごしています。

保母養成12期 安松 陽子

昭和19年生まれ、お陰様で元気に無事に還暦を迎えるこ

とが出来ました。今日迄色々あり、皆様も乗り越えてこられたかと思うと感慨無量です。小、中学校、高校と還暦同窓会に出席し、最後迄顔を思い出すことが出来ず、失礼した人も何人かいました。それでもとてもなつかしく楽しい会でした。又この度、保母養成所の同窓生に会えると思うと、心がうきうき大きな楽しみが出来ました。どんな話題が集まることやら首を長くして保っています。昨年12月から、民生委員をさせて頂き、地域のお役に少しでもあたりたいと、頑張っています。

保母養成12期 花田 政枝

両親の介護をしながらの退職前4年間でしたので、無事定年退職できたのには皆さんに感謝したしております。退職してもゆっくり出来ず5時起き、10時、12時のベッドインです。皆さんお体を大切に。

保母養成12期 郡司嶋 敏子(斉藤)

退職しました。主婦業で幸せを感じています。いつまでも健康で夫婦仲良くいたいものです。

保母養成13期 清水 紘子(原口)

今年でほとんどの同期生が退職をする年齢になりました。これからは毎年集まる機会を計画し、会員相互の交流を深めたいと思っています。又、幹事として同窓会費納入率アップをめざします。

保母養成13期 匿名

卒業して40年が過ぎた今も、現職で保育士の仕事を続けています。子育て支援センター“ひだまり”をたちあげて今年3年目を走っています。母子306人の登録者がいて、9グループにわけて毎日30数名がやっています。親(母)にとって、子育てのよろこびを感じたいいきいき子育てに役立てればとやっています。私自身たくさんの支援をうけている事に感謝ですね。

保母養成15期 川口 克代

保育園からとびでて“直方市地域子育て支援センター”に勤務して3年余り子育て環境は確実に変わり、孤！孤立化した中で、子育てしている母親に出会うたびに胸を痛めます。本来動物は群の中で生活し育ちあうもの、ささやかに1つつつサークルづくりや、地域でのうけ皿づくり、地域全体の人々が共に支え合い共感し、生き生きとした地域づくりをめざし半歩のあゆみをしています。

<福岡県社会保育短期大学>

社保短福祉3期 小野原 百合香

卒業して早ん十年、皆様お元気ですか？私も子育てに終止符をうちましたので、今度は自分の為に何かしたいと思っています。何にしましょう・・・短歌、ビーズ、ソフトバレー、。しかし先立つものは健康です。元気でないと何も出来ませんものね。

脳溢血にならないように(血がどろどろのような気がするのです!!)サラサラ血液を目指します。私が70になっても80になっても90になっても・・・同窓会が盛況で一年に一度皆とあえるのを楽しみにしています。

社保短保育3期 進 久美子

またまた再々就職です。夜勤も初経験。格好良く公務員、結婚、出産と続いたのですが、離婚、子育て、パート勤務他でいろいろな経験をしました。今は長男が結婚し、理学療法士として病院勤務、嫁も病院事務、孫は保育園です。長女は今話題の郵便局勤務、県立大学卒で同窓会と一緒に出席でき

そうです。次男は博多で就職、こちらも結婚しました。只今私は一人暮らしですが、24時間体制のグループホーム勤務です。身体の続く限り働くこととなりました。

社保短福祉4期 川上 鉄夫

定年まで5年を切り、今年4月の定期異動で福祉現場を担当するようになりました。今年は介護保険や障害者福祉関係の法改正があり、市町村の現場は大変です。社保短で福祉の基礎を学び、何かの縁で市役所に就職し、現在まで約2/3の20年は福祉関係業務に従事してきました。あと数年を全力で頑張る予定です。ただ残念な事と言えば、事務職に大学の後輩が就職できなかったことです。まだ希望はもっていますが、確率は？

社保短福祉5期 廣田 悦子

2005.4.1より、俊英学園(都築総合学園)第一福祉大学心理学科に転勤しました。今まで同様精神保健福祉士の養成に励んでいます。恩師の俵先生が教授で上司です。いつも助けられています。

社保短保育5期 馬場 裕子

ここ3年間に孫が2人誕生し夫婦2人の静かな生活から一転、家族6人のにぎやかな毎日です。

社保短福祉9期 松本 由美

故郷を離れてもう24年がたちました。ここ川口(埼玉)で元気に暮らしています。最近また“手話”とかかわり始めました。一度は封印したあの頃の情熱を少し思い出して、また新鮮な気持ちでろうあ者の方たちや、仲間と活動していると思います。

社保短保育10期 十時 春美

子供達に囲まれ27年。年をとっても子供達のパワーに負けないで喜怒哀楽しながら、毎日ハッスルしております。

社保短保育11期 中嶋 圭子

夫・・・1人。子供・・・3人(大学生、高校生、小学生)。北九州市で保育士をしています。年々、体力の衰えを感じますがまだまだがんばりたいです。今、アトラー心理学を勉強しています。頭ではわかっていても、実践はなかなかうまくいきません。日々修行です。

社保短12期 横田 ひとみ

知的障害者の施設で支援主任として頑張っています。同窓会にも行きたいのですが、遠いので勤務の都合がつかず残念、愛媛から県大の益々のご繁栄を祈っています。いつかは行きます！

社保短保育13期 大瀬 瑞穂

田川市教育委員会生涯学習課にいます。

社保短保育13期 笹本 由紀子

8年前に結婚、現在6才の男の子有り。地元の幼稚園の音楽教室の講師をしています。

社保短保育14期 鍋倉 悦子

現在専業主婦をしています。子供は高校1年の長男、中学1年の次男の2人です。家庭菜園、花づくり、スケッチなどをして毎日すごしています。社保短時代がなつかしいです。公立保育所に勤めていたけど、主人の転勤でやめなければならなかったのが今でもそれが心残りです。S57年度(3月)卒業の保育科の皆さんお元気ですか？

社保短保育14期 平野 美代子

社保短を卒業し、20年余り・・・田川での2年間を懐かしく思います。ピアノで一日がはじまり、ピアノで終わる毎日でした。でも考えてみれば、保育士の資格を取るために大変だったけど、充実していた2年だったと思います。県立大になり、どんなことを学ぶ大学になったのかよくわからなくなって・・・ちょっとさみしい気もしますが、私にとっての大学は社保短ですから！！去年9月より仕事に復帰、週2日程度のパートですが、毎日ばたばたと頑張っています。体力勝負の仕事ですがこのこの仕事を選んでよかったと思っています。

社保短保育15期 吉田 佐江子

子供が一年生になり、ついていけなくなりました。あいた時間にヘルパーの勉強をしようと思っています。返事がおくれました。ヘルパー講習を問い合わせたところ、来年度より大幅に時間数も増えむずかしくなるとの事。現実のきびしさを思いしらされ、ふみとどまっております。小学校もゆとり教育となり、時代がかわったことを痛感致します。

社保短保育17期 森永 真寿美

町の経営であった、保育園が民営化となり私の勤めている文政保育園が文政第二保育園として2つ経営していく事になりました。4月から新しい「文政第二保育園」の方へ異動となり、慣れない所ですががんばっています。新しい保育園のスタートです。

社保短福祉18期 有川 直子

早いもので、卒業から20年、会報が届く度に後輩の数が増えているようですね。気持ちは短大生のままで、体力的にはやはり40才。という今日この頃、2005年4月一人息子が小学校入学、初めての事も多く、母も子ども日々いろんな刺激を受けながら少しづつ成長(?)しているつもりです。そろそろ仕事復帰を！と思いつつも重い腰が上がらず、この2～3年、いろんな資格に挑戦して衰えつつある脳に鞭打っています。みなさん、お元気ですか？

社保短保育19期 川崎 礼子

福岡より里の別府に帰郷して早2年。縁あって小さいですが認可外の保育園をしています。別府の秋葉保育園です。HPもありますので見てください。別府の方いらっしゃったら一緒に保育したいですね。

社保短福祉20期 甲斐 美香

社保短を卒業後、宮崎に戻り仕事をしていたのですが、結婚を機に福岡に移り、その後東京にやってきました。現在東京に来て9年目です。授業で学んだことを直接いかせるような仕事ではないのですが、社保短で授業以外で学んだことは一っと役に立っていると思っています。そろそろ同窓会とかしてみたいですね。

社保短福祉21期 梶原 さゆみ

昨年、待望の長男が誕生しました。1歳になり、この1年を振り返ってみると初めての育児でとまどう事も多く、夢中であっという間に過ぎたような気がします。最近動きが活発になり、追いかけて回してへトへトになっていますが、寝顔を見るとそんな疲れも飛んでしまいます。これからの成長がとても楽しみです。



社保短福祉21期 伊藤 綾子

週2日の嘱託の仕事しながら小学生2人の子育て奮闘中です。学校や地域とかかわりながら、子供と一緒に何かを楽しむのも今のうちかな・・・と思い、忙しいながらも楽しい毎日です。

社保短保育21期 高田 智恵子

学研教室はじめました。

社保短福祉23期 小畑麻寿美

福岡市で医療事務の仕事について6年目となりました。患者さんとの接し方、電話対応などいまだに反省することが多く、短大の時もっと勉強すべきだったなあと思うこともしばしばです。

社保短保育23期 小林 由美子 (清留)

平成16年5月より同窓会事務局の作業を手伝っています。みなさんのご協力よろしくお願ひいたしま～す！！

社保短福祉24期 畑中 尚樹・好美

社保短を卒業して10数年・・・気持ちはあのころのままなのに、気づけば30半ば・・・。時は流れましたねえ・・・。ハタPもよっちゃんもいいパパとママになりました。長男しょうじ8才、長女みはる6才、次男ひろき4才。

社保短保育24期 佐藤 留未子

卒業後、保育園に就職、現在も同職場に勤務しています。3歳と1歳の子供がいます。

社保短保育25期 吉田 カオリ

体調を崩してパートタイマーで働いています。社会人サークルや学校・職場がきっかけで仲良くなった友達と楽しい毎日を送っています。

社保短保育25期 井手 弓子

私は、学校事務職員として小学校に勤務をしています。異動のため、今は自宅から車で10分くらいの学校です。職場では、学生時代に学んだことを生かして頑張っています。学習発表会などの学校行事では、ピアノ伴奏をしたりと楽しく過ごしています。

<福岡県立大学>

県大1期 (社会福祉) 北村 麻祐子

昨年(2004年)11月に結婚し、今年(2005年)10月に第1子出産予定です。現在も仕事を続けていますし、出産後も仕事を続けていくつもりです。久留米市田丸町の田丸丸一麦療へ勤務しています。

県大1期 (社会福祉) 矢野 英子 (原之園)

県立大卒業生の皆さん、お元気ですか？私は昨年結婚し、今年3月に長女を出産しました。楽しく子育てしています。大学時代の青春の日々を時々懐かしく思い出します。

県大2期 (社会福祉) 今村 美穂 (教授田)

2人目の子を出産後、療養型病院にて、パートタイマーでソーシャルワーカー業務を行っております。大学を卒業してまだ一年目のソーシャルワーカー(正職員)を補助する形で働いています。しかし、とても純粋でフレッシュな考え方にこちらの方が勉強させられています。又、ただいま子育て真っ最中(3歳長女、1歳長男)で、育児書など読むうちに発達心理学にも少し興味が出たりしています。又、病院柄、認知症の方や精神疾患の方と接することが多く、精神保健福

社士の勉強もしたいなと思っています。

県大3期(人間形成) 田嶋 雅子(安倍)

卒業して早や7年が経ちましたが、この夏結婚しました!!結婚願望が多いにありましたが、独身も楽しすぎて今になってしまいました・・・結婚してみて感じることは、いつも相手が喜ぶことをしていこうと思うと、家庭が明るくなるんだと気付きました。まだスタートしたばかりですが、新しい人生を楽しみながら旦那さんと頑張ります。

県大6期(社会) 團野 仁美(川崎)

今年の10月に結婚いたしました。

県大7期(社会福祉) 中辻 寛子(嘉藤)

大阪府の社会福祉職に就職し、中央子ども家庭センター(児童相談所)の虐待対応に従事しています。現在は結婚し、出産のため産休中で、9月末にはお母さんになります。

県大10期(人間形成) 栗田 崇仁

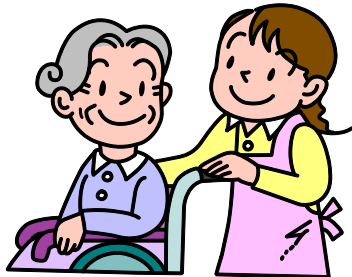
専門学校にて言語聴覚士を目指して勉強中です。

県大10期(人間形成) 守山 公基

今年3月に福岡県立大学・人間形成学科を卒業し、4月から鹿児島県の(独)国立病院機構南九州病院で働いております。職種は児童指導員という福祉職です。毎日患者様のQOLの向上のために頑張っています。

県大8期(社会福祉) 江口 理恵

卒業後、1年間日本青年奉仕協会(JYVA)の年間ボランティアに参加。その後1年間、地方の熊本県で、NPO法人とら太の会で小規模作業所(知的なハンディをもつ仲間の働く場所)の指導員として勤務。(育休の代替要員)そしてこの1年間(現在)はやはり地方のケアハウスで寮母として日常生活支援を日々行っている。



<福岡県立保健婦養成所>

保養1期 中山 綾子

昭和28年3月に卒業致しました者でございます。前からあった貧血は見かけはよいのですが、私にとりましては大変辛い日々でございました。それでも少しでもよければ、お稽古がしたくて外出したりしておりました。週1回の踊りはどうかなあーと思い飛び込みましたが、これは無理でございました。



入るのは易いが出るのは難しいで頑張っておりましたが、足等の骨折、その他、心筋梗塞で道端に倒れ、救急車で運ばれて手術。命拾い致しました。薬はずっと服用する様にと踊りは止めさせていただきました。

保養1期 牛島 慶子(牛島)

72才です。家事をボツボツと内科、整形外科、眼科への通院の日常です。

保養2期 荒木 アヤ子(田中)

新しい学び舎と同窓会設立、おめでとうございます。歴史の変転を送らせて頂き、また福岡県地域精神保健財団の“サイキ・アトリック・ソーシャルカー”として相談業務に関わらせて頂いています。

保養2期 本川真弓

長いもので保健師教育30数年、やっと18年3月には卒業して飯塚に帰れそうです。それからのことはどうするか、まだ考えておりませんが、認知症にはなりたくないで心身の健康には注意をしようと思っています。

保養2期 古川 富美子(鶴田)

卒業後、学校の養護教諭として36年間勤め、退職して13年目になります。身体は病院(定期的)に通院していますが、おかげで元気にしています。70才過ぎたら、人様に迷惑かけない様に生活していかなければと心がけていますが、若い人から見るとあぶなかしいのか、よく手を差し出されず。これからは健康に注意し、長生きしていきたいと思えます。

保養2期 嶋 スエノ

只今90才、元気にしています。(1人暮らし)

保養4期 為田 久枝(横内)

平成17年3月26日に(財)母子衛生研究会、母子保健相談室を退職いたしました。71才6ヶ月でした。それまで看護学校の講師と相談室業務をこなし、3人の子も各家庭を持ちました。生涯学習といわれる今日なので、何かを見つけて今後も生活したいと思っております。

保養5期 中村 淑子

昨年から今年にかけて韓流ブームにのせられています。ブームに乗るのも若返りの1つかなと古希を迎えた自分自身を納得させながら。今年7月は中国四川省へ「九溝・黄龍ハイキング、四姑娘山麓ハイキング」に出かけ、大自然の造景のすばらしさに感動し、たくさんのエーデルワイスやブルーポピー、ガビサンリンドウ等に癒されて来ました。5~6頭の可愛いパンダや生まれたばかりのパンダの赤ちゃんも見て来ました。8月はモンゴルに出かける予定です。ワクワクホルモンやさわやかホルモンが沢山出るような毎日を心がけています。

保養6期 太郎丸 澄子(五十川)

皆様お元気でしょうか?私は特にくすりも服用せず、元気に自由に好きなことをして暮らせる幸をかみしめています。コーラスにピアノレッスン、週2~3回の登山を楽しみ、週1回位訪れる孫と遊ぶ・・・以上のような日々です。

保養7期 猪俣 誠子(須山)

県立高校養護教諭を退職して、9年目になります。100才の父の介護をしながら「心の電話—福岡」の相談員をしています。保養7回生のクラス会をそのうちに実現したいと思っています。

保養7期 八尋 敦子(中村)

古希を迎える年齢になりましたね。私は8年前より抗コレステロール剤を内服し、今冬からは膝の違和感も時々自覚するようになりました。義母と夫と老人3人で暮らしています。時々来る孫たちの相手も疲れるようになりました。平均寿命まであと15年余り、スローライフで行こうと思っています。

保養7期 山本 千年世(小石川)

現職で今も老骨に鞭打って頑張っております。年を重ねる

につれ、体力に限界を感じております。時折、同窓生のことを懐かしく思い出しております。皆さん、お元気でしょうか？

保養8期 牧野 英子(北)

現職を退き、早10年。今では百坪ほどの家庭菜園にて健康によいと思われる野菜、ゴーヤ、モロヘイヤ、ウコン、アロエ等々数種類を作り、自家用はもちろん身近な方にも分けて差し上げる。在職中には味わえなかった田舎生活を楽しんでいます。

保養9期 池田 松子(中山)

退職して8年になります。年とともに病院通いも増えました。民生委員や町の「生きがいディ」などのボランティアをしています。保健婦の仕事の延長線上をボツボツ歩いているようなものです。

保養10期 石橋 照子(黒田)

同窓会が県立大学に合併したことで、永年保養10回生の代表をして下さっていた高橋紀子さんから福岡県立大学に一番近いところに居住している私に代表を替わって欲しいと連絡がありました。私はリウマチをはじめ数種類の薬を服用しておりますので快諾とはいきませんが一応引き受けました。後をよろしく願います。

<福岡県立公衆衛生看護学校>

公衛看10期 大塚 順子(原口)

退職して6年経ちボランティアにあけてくれています。元気が一番です。

公衛看11期 新海 美恵子(橋口)

県立学校を退職しましてもう4年になります。その後も地域での活動を微力ながらも毎日頑張っています。市の社協での健康相談、検診センター(医師会)の「なんでも相談」、民生委員として。登山・お花・旅行と暇を見つけては遊びまわっています。これからも元気で長生きできるよう日々まい進いたします。

公衛看11期 宮原 美枝子(中島)

現在元気に暮らしております。友達とおしゃべりしながらあちらこちら活動や旅行、1番楽しいのはやはり友達とのお付き合いや今まで気付かなかったことや勉強になること、人から頼られること、これから元気が衰えた時の不安も抱えています。

公衛看12期 久米 静江(山下)

平成16年11月に民生委員を辞めて地域のボランティア活動をしています。公民館を利用して高齢者のふれあいサービスですが、近所のご婦人とのふれあいなど楽しんでやっています。

公衛看12期 深川 敬子(益田)

福岡市博多区大字下月隈73-1博多の森のアビスパ福岡のサッカー場やプール等の近くに、特別養護老人ホーム「アットホーム博多の森」を設立しました。これからの高齢化社会、時間が作れたらお力を貸してください。ユニットケアで良い活動をしたいと努力中



です。9月1日開設です。

公衛看13期 牟田 斉子(亀田)

H.15年3月31日に退職。保健所だけの職場で37年間働きました。退職してからも町役場の保健師として産休補充として、毎日忙しい日を過ごしています。市町村に働いていると、市町村の忙しさ、住民からの苦情など保健所では経験できない事を多く学び、忙しいけれど楽しんで仕事をさせて頂いています。

公衛看14期 藤 久美子(藤井)

人生の一連の過程を終えて、安息の日々を過ごしています。長い間の忙しかった事が遠い夢のように思い出されます。これからは川の流れるように流されながら、自然の移ろいの中に身を置き、静かに静かに行き着くところまで日々を積み重ねていこうと思っています。

公衛看14期 楨戸 初代(宇山)

福岡県看護協会地区理事に就任しました。専門職能団体として、会員のパワーが反映できる協会運営に頑張りたいと思います。

公衛看14期 池田カズヨ

公看14回生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか？まだまだ若いと頑張ってきましたが、年齢相応にしか頑張れないものですね。でも若い気持ちで何事にも挑戦したいと考えています。私も「町の保健室」で仕事をしています。一期一会を大事にしたいと考えています。昨年は皆さまにお会いできませんでしたが、また、お会いできることを楽しみにしています。そのためにウォーキングで足腰を鍛えています。

公衛看14期 南里 照子(土肥)

保健師業務を37年間(県)勤め終えて無事退職することが出来ました。その後2年間、産業保健を経験して民間の大変さを知りました。時間を見つけて、イタリア、フランス、スペイン、ポルトガルを旅行しました。次はトルコ？

平成17年7月21日、娘に男の子琉(りゅう)くん誕生！娘夫婦と同居を始め、孫の世話だけをするのではなく、これから何をするか模索中。今のところ、ドームでソフトバンクを応援することがストレス解消。和田 毅 ガンバレ！！

公衛看16期 井上 三智(農中)

子供二人も巣立ち、夫婦二人の生活です。中央、南の保健所で臨職としてお手伝いしています。主に健診のお手伝いです。

公衛看17期 福味 慶子(前田)

「如何にストレスを少なくして過ごすか」目下の課題です。暇を作らないように各種のスクールに通っています。暇があると頭が空になっていきそうで心配。楽しく人生を送り、ほどほどに生き、願わくばピンピン、コロリとなりたい。少し介護に疲れだした今の私です。

公衛看17期 梶原ヒサ代(田中)

昨年3月、久留米医師会看護専門学校を退職しました。自由に飛び跳ねた1年間を終え、今、知的障害を持つ人たちの自立支援に関わっています。沢山の課題を突きつけられ、苦しいそして又楽しくもある時を過ごしています。3人の子もたちもすっかり大人になり、良い仲間になりうれしい限りです。

公衛看17期 吉井 瑞枝(池辺)

皆様、お元気ですか？私も月1回八代へ介護のため、そし

て母はホスピスに入りましたので時間があれば毎日行っています。今が、親孝行の出来る最高の時と喜んで行っています。仕事は、西部ガスで相変わらずマイペースでいい方々に囲まれて続けています。あと、1,2年続けられたらと願っています。勉強させてもらってますので本当にうれしく思っています。

公衛看17期 木原 さく子(吉村)

定年まで残り少なくなりました。仕事の集大成を心がけています。老化防止も自分の体にムチ打ちながら、健康づくりをやっています。子供も巣立って夫婦2人の生活です。

公衛看18期 太田 弘子(松尾)

平成17年4月に唐津商業高校(定時制)に転勤しました。伊万里へ6年間通勤しましたが、30年以上の「パートライフ」より脱皮しました。6年間のドライバー歴の間に2回も事故にあい、命のあることの有難さ、安全運転の大切さをしみじみ感じています。仕事面では今年をいれてあと3年になりました。健康相談活動に力を入れていこうと思って、学会に入り勉強しています。九州思春期研究会にも入っています。松浦賢長先生ともあちこちでお目にかかるようになりました。

公衛看18期 薬師寺 直子(高田)

公衛18回生の皆様、お元気でしょうか?同窓会を楽しみにしています…。昨年仕事を一応辞めまして、現在は在宅で国保連合会より委託の訪問指導の仕事を少しさせて頂いています。胃の調子が悪かったり、膝も良くない等、年齢を毎日感じている今日この頃です。息子は結婚しましたが、あと娘が一人未だですのでもちょっと気にしています。

公衛看18期 備後 由喜江(村上)

平成17年度は子供たちにとって変化のある年となりました。長女が11月に結婚、長男やっと就職できるという状況を迎え、まず一安心かな!!というところです。私自身の人生も2年後はこうありたい!!という夢をみながら、あちこちと動き回っております。

公衛看19期 小野 英子(加来)

初孫の顔を見るのが楽しみなこの頃です。週3~4回、パートで働いています。

公衛看19期 薙野 美恵子(江口)

主人の実家に去年の11月に引っ越してきました。私の故郷にも近い所で、小、中、高の同級生も近くにいて、水も合うし、楽しく暮らしています。子供達は長男、長女とも結婚し、夫婦と猫の3人暮らしです。野菜作りや趣味のコーラスでなかなか忙しいです。仕事は郵政公社の健康管理センターにいます。福岡、佐賀県がエリアで1週間泊りの出張もありなかなか大変です。そろそろ老後に向けての生活設計、健康づくりをしなくてはと思っていますところです。

公衛看19期 坪内 君子(坪内)

平成13年九州共立大学八幡西高等学校を退職しました。

公衛看19期 吉岡 博子(和田)

鹿児島での生活32年目、鹿児島市保健所の乳幼児相談窓口で心理士を担当している保健師です。母と子の生活を支援しています。

<福岡県立看護専門学校>

保助1期 山本 サエ子(中山)

現在大阪府八尾保健所で感染症チームの保健師として働いています。結核、HIV、O157等の感染症に毎日振り回されながら、頑張っています。通勤時間が片道約1時間半かかり、AM9:00~PM5:45(この時間に帰ることはマレ)と勤務時間も長く、かなりバテ気味です。残り少なくなった現役生活を精一杯、後輩の育成も含め頑張りたいと思っています。

保助1期 倉西 邦子(藤井)

昭和48年に卒業し、NTT健康管理センターに就職しましたが、結婚を期に退職。主人の転勤で奈良市役所から鎌倉市役所と転職しましたが、現在石川島播磨重工業 東京総務部人事部で仕事しています。地域、産業と経験でき、非常に学ぶことが多く、今後も色々なことを吸収していきたいと思っています。

保助1期 宮石 照代

熊本県でも唯一の島(五橋でつながっております)天草島に在ります熊本県天草保健所に、この4月単身赴任しております。子供も成人したとは言えやはり自宅のことが気になり、3時間の帰路を毎週つとめております。大変、人情味のある天草の人達の支えにより、有意義な毎日を過ごさせていただいており、感謝です。

保助2期 本山 鶴子(山川)

昭和54年より、東京・足立区で保健師として働き始めて同窓生5名(現在3名は同じ学校です)6月に2回佐世保に帰省(夫の実家)。博多駅から特急に乗ると最初の停車駅が二日市駅…でもここには私の卒業した学校は転移していると思うとちょっと寂しくなりました。東京・千代田区は、平成17年度より派遣保健師の導入にて業務従事している現状があり、不安の中で地域健康づくり推進委員さんと一緒に頑張っています。同期の友達ともなかなか逢えず淋しいです。皆に逢いたいですね。

保助2期 野口 久美子(都留)

行政改革の嵐が吹きまくり、大きな波に押しつぶされそうな毎日です。今、市町村は大改革の年を迎えています。これから、ますます市町村格差が広がる中、保健師の仕事とは、と自問自答しながら生きています。3人の子供もやっと自立いたしました。ほっと一息の日々を送っています。

保助2期 梶原 博子

昨年秋の叙勲では皆様に祝っていただき、大変ありがとうございました。就業中に出来なかったことを色々楽しんでいきます。荷物の整理、源氏物語教室受講、ウォーキング、太極拳、公民館活動、母の介護、それから病気もして患者体験も。ゆったり穏やかな日々を過ごしています。

看護2期 吉村 眞知子(江頭)

卒業して早30年。就職、寿退社、子育て、夫の転勤に伴い海外生活、帰国、母子家庭(夫単身赴任)とめまぐるしい人生の中にいます。そんな中私は保健センターで乳幼児健診、育児指導、乳幼児訪問。助産所では母乳ケア、相談、育児サークル活動。産医院で妊婦指導、分娩介助他中・高生への「生きる教育、性教育」Babyマッサージの教室等をしています。現在、住居地周辺での活動ですので、全てに一貫性があり、私自身としては大変やりがいのある仕事となっています。常に学びながらではありますが、一生の仕事として誇りを持っております。

看護2期 廣永 博子(吉泉)

医療の世界とは、無縁の生活をしています。現在は「カリグラフィー」という西洋の書道と言っていますわれている(ア

ルファベットの書き方でデザインして表現するアート）クラフトカルチャーセンターの講師をしています。個展やグループ展も地元・福岡で行っています。

保助4期 高須賀 あけみ(横山)

就職して早30年。新人の親御さんより年長となり嬉しくもあり寂しくもあり。今年の4月から福岡市中央区荒戸にある“ふくふくプラザ”内の介護実習普及センターに異動になりました。介護用品の展示は、約1600点に及び、機能を持つところなんです。最新機器もありますので、近くにお越しの折はお立ち寄りください。必見です。ちなみに第3火曜と年始年末以外はオープンです。福岡市介護実習普及センター ☎092-731-8100

看護3期 上村 寛子(内藤)

50才を過ぎた今、体力、能力の限界また、子供達も何とか頑張っており、すこしゆとりのある仕事がしたいと思い、近くのディサービスで健康管理の仕事をしています。医師不在の為、また、違った意味で大変ですが何とか頑張っています。今、一番の楽しみは友人との旅行です。家族とは違って仕事の話などストレス発散も出来ます。また、同窓の皆さんとお会いしたいですね。

看護3期 惣門 早苗(吉岡)

同窓会が福岡県立大学同窓会と一本化されたことよって、5才年上の姉(保母養成所卒業)と同窓生となりました。高齢化社会へとハイスピードで進む中、福祉関係の県立大学は益々、必要とされ注目される存在です。福岡県立大学の更なる発展と同窓会の充実を期待しています。

看護4期 石村 みき子(永山)

卒業して30年、ずっと現場で働いてきましたが、50才という年齢になり体力も気力もずいぶん落ちてきました。大学も法人化になり、今はとても忙しくなりました。もうしばらくするとみんな慣れて落ち着くとは思いますが、意識改革が難しいです。私もこれから先の人生、ゆっくりと歩いて行こうと思います。来年(18年)の3月で退職する予定です。体力と相談しながら、旅行したり地域行事に参加したり、家庭菜園も出来たらいいなあと思っています。同窓生の皆様も健康第一で頑張ってください。

看護4期 枝元 京子(園田)

20年働いてきた病院の産科廃止に伴い、助産師を廃業し、看護師としての再スタートです。病院は変わってないのですが、50才を前に大きな変化です。知らないことばかりで0からの出発で大変な年でした。今年は2年目、少しは役に立てるよう毎日が勉強の日々です。

保助6期 小野 万紀(小野)

お元気でしょうか？年月の経つのは本当に早いものですね。退職の歳が近くなってまいりました。体の続く限りと思っておりますが・・・毎日、自分の孫のような子供たちに囲まれて元気付けられております。

保助6期 江島 恵美子

4年ぶりに佐賀中部保健所に異動で戻ってきました。精神保健が長かったのですが、難病対策担当となり、初めは浦島太郎状態。少し慣れてきたところです。最近肩こり、腰痛、ひざの痛みに悩まされ整体に通い始めました。骨盤がゆがんでいるのだ、脊椎が曲がっているのだ…肩がかたい等々、体がねじれた様な事言われてショック！心もねじれそう・・・

看護5期 井本 邦子

独立行政法人国立病院機構になって、いろいろ変わりました。変化も必要ですが、精神科看護を28年間やってきたことは無駄にせず、看護の専門性をさらに高めたいと思っています。長男は24歳、長女は21歳です。夫も私も元気ががんばっています。

看護5期 小寺 一恵(豊村)

私達の学校がますます発展していることに感動と喜びを感じます。会員の皆様、お変わりありませんか？職場では様々な課題が多々ありますが、若い人々に支えられ楽しく毎日を過ごしています。

保助7期 宮本 敬子

昭和53年より福岡県に勤務し、現在は久留米保健事務所に勤めています。私的には子供2人も成人し、娘が私と同じ保健師として東京で仕事をしていること。息子は大学4年生になり、福岡で生活しており、夫婦2人の生活を楽しんでいることかな。

保助8期 郡島 久美子(荒木)

今年、社会福祉士の資格を取得しました。介護保険の法改正で地域包括センターが18年4月から創設され、そのセンターに保健師、社会福祉士、主任ケアマネージャーが必要となり、今まで学習したことを実践できる場が広がったようです。成年後見制度や人権擁護の分野を学習し、定年後NPOで活動できればと夢見ています。6年前に乳がんの手術を受けたので、今後何事もなく生活できたらよいのですが・・・。

看護7期 山口 由喜

外来部門から3年ぶりに病棟への移動になりましたが、浦島太郎状態の中、何とか頑張っています。しかし、夜勤はきついです。

保助9期 井出 輝実

現在 社会保険久留米第一病院
三階病棟勤務中。

看護8期 川原 きよか(山口)

公立八女総合病院勤務中です。現在、介護老人保健施設「回寿苑」に勤務移動し、5年目に入りました。まだまだ頑張っています。



看護8期 小宮 浩子(中山)

福岡歯科大学病院16年目となりました。長女が福大看護専門学校に進学して看護師を目指しています。(絶対にならないと断言していたのに・・・)

看護8期 花田 美那子

皆様、お元気ですか？ 私はずっと看護師を続けています。地域の患者様がたとの心の交流の中に新しい地域医療の可能性を感じています。大きな戦争も環境破壊の現実もすべては日々、おりなされる小さなケンカや誤解、そのような人の心の集結が作り出してしまった結果であると思います。ならば、私たち一人一人が、心に愛の灯をともし以外、解決の道はないのだと思います。日々の一歩から…いっしょに頑張りましょう。

看護8期 河津 文香(森尾)

2005.4月 県立遠賀病院が民間病院に移行しました。遠賀中間医師会 遠賀中間医師会病院です。派遣職員で勤務して

います。新しい仲間と頑張ってみようかなと思いつつ、今のところ勤務しています。

保健1期 永田 三枝子(佐々木)

卒業してなんと24年たちやいました～！主人の実家大阪に移住して20年、すっかり九州弁より大阪弁が板についています。現在は大阪でも有名なヘルスコープおおさか医療生協の中の診療所で、師長をしています。小さな診療所(上に生協診)ですが、法人で一番に電子カルテ導入したり、今は、ISO 9001取得に向け(7.21に監査)、新しいことに全て取り組んでいます。毎日帰宅遅く、「とおちゃん元気で留守がいい」は世間一般で通っていることですが、我が家は「かあちゃん元気で留守がいい・・・?」になっているようです。結婚して23年、二人の息子も20才、18才けっこう自立しています。息子たちに手がかからなくなった面、主人と二人で文学鑑賞、映画鑑賞と大いに楽しんでいます。大阪にお越しの節は、同窓生(保健婦科1回生)のみなさん、ご連絡ください。大阪を案内しまっせ～!!

看護10期 村吉 君江(杉原)

結婚退職後、自営の理容店のお手伝いをしていたが、子供の成長と共に15年ぶりに特別養護老人ホームの看護師として17年5月より勤務しています。半年が過ぎようとしている今、15年というブランクはなかなかうまりませんが、あせらず少しずつ老人養護を勉強していきたいと思っています。

保健2期 丸山 ヒト恵(小倉)

八女市役所に勤めて22年になります。合併や行革で保健師もどうあるべきか真剣に論議しています。

保健4期 小泉 孝子

在宅保健師として、久留米市田主丸総合支所に、時々保健事業のお手伝いをしています。

保健4期 松本 久美子(八段)

しわ、白髪、老眼、日々目立ってきてますが、ものともせず暮らしています。

看護12期 熊谷 千代美(有園)

17才、14才、2才の子供の世話と仕事(総合HPの外来パート)で毎日忙しく過ごしております。キャリアアップとは無縁なので子供の成長だけが楽しみです。

保健5期 中村 登代子(大城)

福祉事務所で児童福祉の業務に携わっています。児童虐待、育児の孤立化など親や子を取り巻く環境が変化しているのを痛感します。

保健5期 兒玉 尚子

平成17年4月より地域看護学から小児看護学に異動しました。地域看護実習の際は、母校の皆様は大変お世話になりました。ありがとうございます。今後ともよろしくご指導お願い致します。

助産5期 重富 恵(橋本)

皆様お元気ですか?私は現在、主人の仕事を手伝いながら、日常の雑用に追われる毎日を送ってます。いつか助産業務に戻れるといいなと思いつつ、年令ばかり上がっております。県看がとってもなつかしい、今でも心にぽっかり穴が開いています。悲しいな・・・

保健6期 大久保 典子(築地原)

育児休業にて子育て中。『いい制度だなー。』と感謝しつ

つ、子供と幸せな時間を過ごさせてもらっています。

看護14期 村田 かよ子(平川)

30才になり3人の子供を授かり、仕事、子育て、家事に毎日めまぐるしく動いております。県看にいた時のパワフルな自分を思い出し、あと2年あと5年すれば・・・と毎日踏ん張っております。あと1年で40才になる自分に何かしたい!!14回生の皆さん、温泉でも行きましょい!!誘って～ください。

看護14期 伊藤 成美(八尋)

県立遠賀病院 平成17年3月31日閉院となり、転勤を選択し、4月より粕屋新光園へ赴任、新しいスタートをきりました。

保健7期 宮原 智子(梅野)

現在、福岡県久留米保健福祉環境事務所に在職中です。小5の娘はバレーボール、小3の息子は野球に毎日頑張っています。そんな2人の子育てを楽しみつつ、仕事では思い悩む日々です。

看護15期 屋宜 美恵香(田中)

去年8年ぶりに看護師として再スタートをきりました。戸惑うことばかりで毎日が勉強です。

保健8期 疋田 理津子(疋田)

H14年に厚労省に入省。保健指導室、虐待防止対策室、看護研修センターと3度の異動を経験して、看護を中心に保健医療福祉への社会保障から社会サービスへまさにサービスとしての真価が問われる状況だと感じています。3人の子供は現在、2才、5才、7才、親としての力量が問われる毎日ですが、日々新しい刺激をもらっています。今年から社会人入学で40を目前にしての課題「説明力」について体得中です。

看護16期 日高 典子

変わりなく頑張っています。

看護16期 小佐々 華七子(山口) 結婚 退職

看護16期 梅津 由美(太田)

東京から横浜に引っ越ししました。なかなか福岡へ帰れず、寂しい思いもしています。今は、育児専念中で(10歳、1歳)仕事はしていません。子供を病院に連れて行ったりすると「私もまた仕事やりたいなあ」という気になります。

看護20期 岡本 智子(伊勢田)

日勤だけですが、勤務2年目となりました。中1の娘が家事をしてくれることもしばしばです。

保健13期 瀑布川 幸子

精神障害者の作業所でスタッフとして働いて3年が過ぎました。養護教諭→営業→保健婦→作業所転職の限りを尽くして、やっと自分に合う所を見つけました。未だに負け犬ライフを続けております。

助産14期 中野 充代(吉村)

1歳の男の子の育児に追われています。

看護22期 古川 美樹(佐々木)

福岡歯科大学病院に17年4月から勤務しています。

保健16期 中野 文恵(山本)

名古屋で2人の子供(2才と0才)の育児に没頭中です。

保健16期 松隈 祥江

あいかわらず残業の日々です。吉報もございません。

保健16期 清谷 智寿子(光田)

博多区保健福祉センターに勤務しています。思い描いていたライフプランからは逸れながら、現在は遠距離通勤中です。子供も2才を過ぎ慌ただしい毎日を送っています。

保健16期 古賀 久美子(竹下)

現在は本間病院に勤めています。

助産16期 泉 朋美(土谷)

1年の育休を終えて、約9年勤めたエンゼル病院を退職いたしました。我が子を出産した場でもある思いで多き職場を離れるのは淋しいものです。9月からは新しい職場にパートとして勤務しています。常勤の時は、残業でお迎えも毎日のように最後で、淋しがっていた息子も小学1年生。これからは子供へ関わる時間を増やしつつ、自分の助産師としての勉強にも努力したいと思っています。

保健17期 森田 薫(船津)

市町村保健師8年目で育児休業中です。17年3月に初めての出産、男の子の育児で日々を過ごしています。とても大人しく育てやすいので今のところ楽しめています。やはり、母子保健や福祉への感心が高まり、また今までの浅い知識や母親への理解に反省も多いです。

保健17期 織田 智恵(柳)

養護教諭として中学校で働き始めて8年目となりました。学校現場はこの8年でもずいぶん変化していて、年々忙しさを感じています。でも中学生は可愛いです。生徒に支えられて家族に支えられて頑張っています！

助産学科17期 崎田久美子(森)

助産師として丸5年働きました。育休後より他病棟へ配属となり今は筋ジス病棟で働いています。少し離れて、助産師の仕事についてよく考えるようになりました。命を守る厳しさ、交代時にお産になると代われない、ストレス、体力、気力ともすりへり、ヘトヘトになっていたように思います。充実感はありませんが、体力、気力ともに限界を感じていました。今は、2才の息子を生きがいに働いています。

看護26期 河野 康子

4月に県立嘉穂病院から九州歯科大学付属病院へ転動しました。

保健19期 井上 美栄(酒井)

保健師として働いていますが、5月に第2子を出産し、現在育児休業中です。2歳、0歳2人の男児の日々の成長を楽しみに育児に奮闘しています。

保健19期 松田 利花(太田)

2004年4月 大阪市健康福祉局 健康づくり推進課に転勤
8月 結婚
2005年3月 長男出産 現在育児休暇中
2006年より 復職予定です。

助産20期 本田 幸子(吉田)

エンゼル病院に勤務しています。

保健21期 佐藤 美也子(緒方)

卒業より自衛隊札幌病院にて看護師として働き始め、今年で5年目になります。

助産21期 宗 加奈子

平成17年3月 大阪府立母子保健総合医療センター退職。現在オーストラリア留学中。18年7月1日帰国予定。

助産21期 久安 利枝

16年12月に日本鋼管福山病院に再就職しました。助産師になって5年。まだまだ新米ですが、日々頑張っています。

保健23期 乗添 詔永(土井)

現在、北九州市立大学北方キャンパスにて保健室、保健師として働いています。2005.1.1に籍を入れて北九州で新しい生活を送っています。保健師としてはまだまだ未熟で先輩方に教えていただくことが沢山あります。北九州に来る前の福岡で東区の臨時での保健活動は大変勉強になり、私の保健活動大きな影響を与えてくれました。これからも先生、先輩方の御指導宜しくお願い致します。

看護30期 前田 洋司

筑後地方某精神科病院に勤務しています。16年8月に結婚し、17年5月には長女も我が家の仲間入りをしました。バタバタ1日が過ぎていきます。過労で体調を崩しやすく、体力をつけなければと思っています。皆さんも体に気を付けて下さい。

○ 同窓会事務局へのお問い合わせ

同窓会専用のFAX電話を設置しています。同窓会事務局へのお問い合わせは下記の電話番号までお願いいたします。

現在、事務局作業日(毎週金曜日10:00~17:00)には電話によるお問い合わせを受けておりますが、金曜日以外は留守録設定となっております。

お名前・卒業校・卒業期・お電話番号を留守録メッセージに残していただければ、こちらからご連絡させていただきます。

FAXの場合はいつでもご送信ください。

〒825-8585 田川市伊田4395

福岡県立大学内

福岡県立大学同窓会事務局

TEL(FAX共通)

0947-42-2777

○ 会報偶数号発行について

今回より会報偶数号は同窓会年会費を納入下さった方への発送となりました。もし、同期の方等で、年会費を納入したのに、会報がお手元に届かなかったとの、事務局不手際がありました場合は、是非、ご一報ください。

(編集後記) 会員より沢山の原稿をいただく中でその掲載に追われ、編集機能が滞っています。情報を会員のみなさんにわかりやすく、お伝えできるように努力していきます。会報へのご意見を是非事務局までお寄せ下さい。(編集委員会)

